



Informatica® MDM Multidomain Edition
10.2 HotFix 1

プロビジョニングツールガイド

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。お客様が本書内に問題を発見された場合は、書面にて当社までお知らせください。Informatica LLC
2100 Seaport Blvd.Redwood City, CA 94063。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2019-05-28

目次

序文	7
Informatica のリソース.....	7
Informatica Network.....	7
Informatica ナレッジベース.....	7
Informatica マニュアル.....	8
Informatica 製品可用性マトリックス.....	8
Informatica Velocity.....	8
Informatica Marketplace.....	8
Informatica グローバルカスタマサポート.....	8
 第 1 章 : 概要	9
プロビジョニングツールの概要.....	9
アーキテクチャ.....	10
前提条件.....	10
主な概念.....	11
ビジネスエンティティ.....	11
参照エンティティ.....	11
ルートノード.....	11
プロビジョニングツールへのログイン.....	11
 第 2 章 : ルートノードの確立	13
ルートノードの確立の概要.....	13
ルートノードの追加例.....	13
前提条件.....	14
ルートノードのプロパティ.....	14
ビジネスエンティティルートノードの確立.....	15
ビジネスエンティティルートノードの作成.....	15
参照エンティティルートノードの確立.....	16
参照エンティティルートノードの作成.....	16
状態管理検証の有効化.....	17
レコード削除とレコードチェックのストラテジの設定.....	17
 第 3 章 : ビジネスエンティティモデルの定義	19
ビジネスエンティティモデルの定義の概要.....	19
ビジネスエンティティモデルの設定例.....	20
前提条件.....	20
制約.....	20
ノードタイプ.....	21
1 対多のリレーションがあるルックアップノードの作成.....	22
1 対 1 のリレーションがあるノードの作成.....	23

1 対 1 のリレーションがあるルックアップノードの作成.	23
第 4 章 : ビジネスエンティティのプロパティの設定.	25
ビジネスエンティティのプロパティの設定の概要.	25
フィールドのプロパティ.	25
ノードへのフィールドの追加.	27
カスタムデータ型.	27
フィールドへのカスタムデータ型の追加.	28
Informatica Data Director のノードのラベル.	28
ノードのラベルの設定.	30
第 5 章 : 参照エンティティのプロパティの設定.	31
参照エンティティのプロパティの設定の概要.	31
ルックアップタイプ.	31
フィールドのプロパティ.	32
ノードへのフィールドの追加.	33
ルックアップの設定.	34
依存ルックアップの設定.	34
第 6 章 : ビジネスエンティティとビューの変換.	36
ビジネスエンティティとビューの変換の概要.	36
トランスフォーメーションのソースおよびターゲット.	37
クレンジングトランスフォーメーション.	38
読み取りおよび書き込みプロセスでのトランスフォーメーション.	38
ビジネスエンティティビューのモデル化.	40
ビジネスエンティティビューのルートノードの確立.	40
フィールドの追加.	41
子ノードの追加.	41
ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションの設定.	41
1 対多の子ノードのトランスフォーメーションの設定.	41
直接トランスフォーメーションの設定.	42
ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定.	42
子ノードのトランスフォーメーションの設定.	43
直接トランスフォーメーションの設定.	43
クレンジングトランスフォーメーションの設定.	43
ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定.	44
子ノードのトランスフォーメーションの設定.	44
クレンジングトランスフォーメーションの設定.	44
トランスフォーメーションの削除.	45
第 7 章 : 多対多のリレーションの管理.	46
ビジネスエンティティリレーションの概要.	46
関連レコード (ビューモード)	46

関連レコード（編集モード）	47
リレーションに関連付けられた追加属性	48
前提条件	48
多対多のリレーションの設定	48
リレーションの設定	49
関連レコードのコンポーネントの作成	51
関連レコードでのエンティティビューのレイアウトの設計	52
第 8 章 : タスク設定	53
タスク設定の概要	53
タスクのタイプの設定	54
タスクテンプレートの設定	55
ワークフロートリガの設定	56
トリガプロパティの設定	57
イベントの設定	58
トリガ用のロールの設定	58
わかりやすいタスクタイトル	59
わかりやすいタスクタイトルの設定	59
デフォルトのタスク設定	60
タスク承認者の変更	61
第 9 章 : Data as a Service の統合	63
概要	63
DaaS サービス用の WSDL ファイル	63
トランスフォーメーション	64
ビジネスエンティティから XML へのトランスフォーメーション	64
XML からビジネスエンティティへのトランスフォーメーション	64
SOAP サービス	65
DaaS プロバイダ	65
DaaS プロバイダコンポーネント	65
DaaS プロバイダの統合	66
WSDL ファイルのアップロード	66
ビジネスエンティティの XML 形式への変換	67
XML データのビジネスエンティティへの変換	69
SOAP サービスの登録	72
DaaS プロバイダの設定	73
DaaS プロバイダコンポーネントの作成	74
DaaS でのエンティティビューのレイアウトの設計	75
トランスフォーメーションの削除	75
WSDL ファイル、SOAP サービス、および DaaS プロバイダの削除	75
第 10 章 : 外部呼び出しの設定	76
概要	76

外部呼び出しの設定.	77
WSDL ファイルのアップロード.	77
SOAP サービスの登録.	77
外部呼び出しの設定.	78

第 11 章: Informatica Data Director のユーザーインターフェースの設計. . 79

Informatica Data Director のユーザーインターフェースの設計の概要.	79
ユーザーインターフェースの設計例.	80
ユーザーインターフェース設計の前提条件.	80
Informatica Data Director アプリケーション.	80
ユーザーインターフェースのレイアウト.	81
スタートページ.	81
エンティティビュー.	82
標準ユーザーインターフェースコンポーネント.	82
ビジネスエンティティ.	83
ダッシュボードレポートビュー.	83
一致レコード.	84
関連レコード（ビューモード）.	84
関連タスク.	85
ソースシステム.	85
タスクインボックス.	86
カスタムユーザーインターフェースコンポーネント.	86
外部リソース.	87
関連レコード（編集モード）.	89
類似するレコード.	89
レイアウトの設計および更新方法.	90
Informatica Data Director アプリケーションの作成.	91
関連レコードのコンポーネントの作成.	92
類似するレコードのコンポーネントの作成.	93
外部リソースのコンポーネントの作成.	94
スタートページのレイアウトの設計.	94
エンティティビューのレイアウトの設計.	96
スタートページのレイアウトの更新.	100
エンティティビューのレイアウトの更新.	101

付録 A: プロビジョニングツールに関するよくある質問. 103

プロビジョニングツールに関するよくある質問.	103
--------------------------------	-----

索引. 105

序文

『Informatica MDM Multidomain Edition プロビジョニングツールガイド』へようこそ。このガイドでは、プロビジョニングツールを使用してビジネスエンティティ、ビジネスエンティティビュー、トランスフォーメーション、タスク、スマート検索を設定する方法を説明します。また、Informatica[®] Data Director (IDD) アプリケーションを作成する方法と、マスターデータを表示するページおよびビューを設計する方法も説明します。

このガイドの対象読者は、次のロールを持つ方々です。

- 設定タスクに責任を持つ技術者
- IDD アプリケーションの開発者

Informatica のリソース

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica グローバルカスタマサポート、Informatica ナレッジベースなどの製品リソースをホストします。Informatica Network には、<https://network.informatica.com> からアクセスしてください。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ドキュメント、FAQ、ベストプラクティスなどの製品リソースをナレッジベースで検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

ドキュメント、ハウツー記事、ベストプラクティス、PAM などの製品リソースを Informatica Network で検索するには、Informatica ナレッジベースを使用します。

ナレッジベースには、<https://kb.informatica.com> からアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

使用している製品の最新のドキュメントを取得するには、
https://kb.informatica.com/_layouts/ProductDocumentation/Page/ProductDocumentSearch.aspx にあ
る Informatica ナレッジベースを参照してください。

このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム
(infa_documentation@informatica.com) です。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベ
ースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica Network メンバである場合は、
PAM
(<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>) に
アクセスできます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスによって開発されたヒントおよびベスト
プラクティスのコレクションです。数多くのデータ管理プロジェクトの経験から開発された Informatica
Velocity には、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を
行ってきた弊社コンサルタントの知識が集約されています。

Informatica Network メンバである場合は、Informatica Velocity リソース
(<http://velocity.informatica.com>) にアクセスできます。

Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から
Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を強化したり拡張したりするソリューションを検索
できるフォーラムです。Informatica の開発者およびパートナーの何百ものソリューションを利用して、プロ
ジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、
<https://marketplace.informatica.com> からアクセスできます。

Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト
(<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参
照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用
できます。

第 1 章

概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [プロビジョニングツールの概要, 9 ページ](#)
- [アーキテクチャ, 10 ページ](#)
- [前提条件, 10 ページ](#)
- [主な概念, 11 ページ](#)
- [プロビジョニングツールへのログイン, 11 ページ](#)

プロビジョニングツールの概要

プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティモデル、タスク、トランスフォーメーションを定義し、Informatica Data Director のユーザーインターフェースを設計できます。

定義

次の定義を作成および編集できます。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティモデルを定義します。ビジネスエンティティは、組織にとって重要なエンティティを表します。通常、組織は顧客、サプライヤ、従業員、製品、取引先を表すビジネスエンティティタイプを定義します。

ビジネスエンティティビュー

ビジネスエンティティビューモデルを定義します。ビジネスエンティティビューは、ビジネスエンティティの圧縮バージョンです。

参照エンティティ

参照エンティティを定義します。参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。

リレーション

ビジネスエンティティのベースオブジェクト間のリレーションを定義します。

トランスフォーメーション

構造トランスフォーメーションとデータトランスフォーメーションを定義します。

タスク設定

タスクを引き受けることができるユーザー、ビジネスプロセスを開始できるユーザー、およびデフォルトのタスクプロパティを定義します。

拡張

SOAP サービスと WSDL URL を定義します。

デザイン

次のユーザーインタフェースアイテムを作成および設計できます。

アプリケーション

Informatica Data Director アプリケーションを作成します。

コンポーネント

ビジネスエンティティを管理するユーザーインタフェースコンポーネントを作成します。

レイアウト

ユーザーインタフェースレイアウトを設計します。

アーキテクチャ

プロビジョニングツールでは、MDM Hub のオペレーショナル参照ストア（ORS）からスキーマ情報を読み取ります。スキーマ情報に基づいてビジネスエンティティを設定するには、プロビジョニングツールを使用します。すべての構成ファイルを更新したら、変更をリポジトリのテーブルにパブリッシュします。

プロビジョニングツールは、Hub サーバーと同じアプリケーションサーバーで実行されます。

構成ファイルに対する作業を行う場合、変更は一時ワークスペースに保存されます。変更をパブリッシュするまで変更は適用されません。複数のユーザーが ORS のビジネスエンティティ設定を同時に変更する場合、最後にパブリッシュされた設定で MDM Hub が更新されます。

前提条件

プロビジョニングツールを使用するには、オペレーショナル参照ストア（ORS）に定義済みの MDM スキーマが含まれている必要があります。定義済みのスキーマには、ベースオブジェクトと、ベースオブジェクト間の外部キーリレーションに基づく制約が含まれています。

Web サービスにビジネスエンティティを使用する場合または Informatica Data Director を使用する場合の前提条件

ビジネスエンティティにノードを追加するには、まずベースオブジェクトを定義する必要があります。MDM Hub コンソールを使用してベースオブジェクトを定義します。

ビジネスエンティティモデルを設定するには、まずベースオブジェクト間のリレーションの制約を定義します。MDM Hub コンソールを使用して外部キーリレーションの制約を定義します。

主な概念

プロビジョニングツールで効果的に作業するには、ビジネスエンティティと Informatica のマスターデータ管理の概念についての基本的な理解が必要です。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティは、組織にとって重要なエンティティを表します。通常、組織は顧客、サプライヤ、従業員、製品、取引先を表すビジネスエンティティタイプを定義します。例えば、[Person] というビジネスエンティティタイプがあるとします。顧客 John Smith は、[Person] タイプのビジネスエンティティになります。

組織は、ビジネスに一意のデータのビジネスエンティティタイプを定義することもできます。例えば、慈善団体はビジネスエンティティのタイプとして寄贈者を定義します。医療機器メーカーは、一意のデバイス識別子を定義します。多くの組織は複数のビジネスエンティティタイプを定義します。アプリケーション開発者は、Informatica Data Director アプリケーションに存在するビジネスエンティティタイプを制御します。

MDM Hub Store では、ビジネスエンティティはベースオブジェクトテーブルのレコードに対応します。親レコードには、ビジネスエンティティの識別情報が含まれます。親レコードには、ビジネスエンティティに関連するデータ（住所や電話番号など）を格納する子レコードへのリレーションが含まれます。

参照エンティティ

参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。

ルックアップベースオブジェクトは、参照データのリストが含まれるテーブルです。例えば、電話の種類フィールドのルックアップテーブルには、自宅、勤務先、携帯電話の値が含まれている場合があります。参照エンティティデータは、Informatica Data Director で値のリストに入力するために使用できます。

ルートノード

ルートノードは、ビジネスエンティティモデルの最上位ノードで、ビジネスエンティティタイプを定義します。

ルートノードとビジネスエンティティは同義です。例えば、Person ルートノードのあるビジネスエンティティモデルは、Person ビジネスエンティティとみなされます。ルートノードを作成した後に、ビジネスエンティティモデルを定義できます。ビジネスエンティティ内のノードには、ルートノードの属性に関する情報が含まれています。

プロビジョニングツールへのログイン

ログインするには、プロビジョニングツールの URL とユーザー資格情報が必要です。URL には MDM Hub サーバーのホスト名とポート番号が含まれています。この情報がない場合は、MDM Hub の管理者に問い合わせてください。

プロビジョニングツールと同じアプリケーションサーバーで MDM Hub を実行している必要があります。

1. サポートされているブラウザを開きます。
2. プロビジョニングツールの URL を入力します。URL の形式は次のとおりです。

セキュリティ保護されている接続。 `https://<MDM Hub Server host name>:<MDM Server port number>/provisioning/`

セキュリティ保護されていない接続。 http://<MDM Hub Server host name>:<MDM Server port number>/provisioning/

【ログイン】 ページが開きます。

3. ユーザ名とパスワードを入力します。
4. **【ログイン】** をクリックします。
5. ビジネスエンティティを設定するオペレーショナル参照ストアを選択します。
プロビジョニングツールが開き、**【ホーム】** ワークスペースが表示されます。

第 2 章

ルートノードの確立

この章では、以下の項目について説明します。

- [ルートノードの確立の概要, 13 ページ](#)
- [ルートノードのプロパティ, 14 ページ](#)
- [ビジネスエンティティルートノードの確立, 15 ページ](#)
- [参照エンティティルートノードの確立, 16 ページ](#)
- [状態管理検証の有効化, 17 ページ](#)
- [レコード削除とレコードチェックのストラテジの設定, 17 ページ](#)

ルートノードの確立の概要

ルートノードは、ビジネスエンティティモデルの最上位ノードで、ビジネスエンティティタイプを定義します。プロビジョニングツールを使用してビジネスエンティティモデルを作成する場合、まずルートノードを作成します。

ルートノードを確立したら、ルートノードのプロパティを設定できます。ルートノードを作成したら、ビジネスエンティティモデルに従ってビジネスエンティティモデルを定義できます。

また、参照エンティティを設定することもできます。参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。ルックアップルートノードを確立したら、ルックアップルートノードのプロパティを設定できます。

Informatica Data Director (IDD) でビジネスエンティティを使用する場合、IDD コンフィギュレーションマネージャのサブジェクト領域でビジネスエンティティを生成する必要があります。プロビジョニングツールで直接作成されたビジネスエンティティは IDD では機能しません。

IDD は使用しないが、ビジネスエンティティに直接アクセスする Web サービスとしてビジネスエンティティサービスを使用する場合、プロビジョニングツールで作成されたビジネスエンティティを使用できます。プロビジョニングツールを使用して、MDM スキーマですでに定義されているビジネスエンティティを編集することもできます。

ルートノードの追加例

大手多国籍企業の人事部で働いているとします。組織のすべての従業員を追加し、各従業員を「Person」ビジネスエンティティとして追加したいと考えています。

Person ビジネスエンティティのルートノードを追加するには、次の手順を実行します。

1. プロビジョニングツールで、**[ビジネスエンティティ]** > **[モデリング]** を選択します。

2. **【ビジネスエンティティ】**を選択し、**【作成】**をクリックします。
3. ノードのプロパティパネルの**【ベースオブジェクト】**フィールドで**【C_PARTY】**を選択します。
4. ルートノードの名前およびラベルとして「Person」と入力します。
5. ビジネスエンティティモデルペインでビジネスエンティティのモデルを定義します。
6. 変更を保存します。

組織の従業員はさまざまな国に住んでいるため、参照エンティティ「LUCountry」を作成することを決定します。このエンティティは、MDM スキーマの Country ルックアップベースオブジェクトに関連付けられます。

LUCountry 参照エンティティのルートノードを追加するには、次の手順を実行します。

1. プロビジョニングツールで、**【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】**を選択します。
2. **【参照エンティティ】**を選択し、**【作成】**をクリックします。
3. ノードのプロパティパネルの**【ベースオブジェクト】**フィールドで**【C_LU_COUNTRY】**を選択します。
4. ルートノードの名前およびラベルとして「LUCountry」と入力します。
5. 変更を保存します。

前提条件

ビジネスエンティティにノードを追加するには、まずベースオブジェクトを定義する必要があります。MDM Hub コンソールを使用してベースオブジェクトを定義します。

ベースオブジェクトの定義の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

ルートノードのプロパティ

プロビジョニングツールを使用して、ルートノードの次のプロパティを設定します。

名前

ビジネスエンティティ構成ファイル内のノード名。

ラベル

プロビジョニングツールのツリービューに表示されるノード名。

説明

ルートノードの説明。オプション。

状態管理が有効

ビジネスエンティティのすべてのノードに状態管理が適用されているかどうかを判断します。

ベースオブジェクト

ルートノードに関連付けられている MDM Hub 内のベースオブジェクト。

ラベル形式

Informatica Data Director の複数のビューに表示されるノード名の形式。オプション。

ビジネスエンティティルートノードの確立

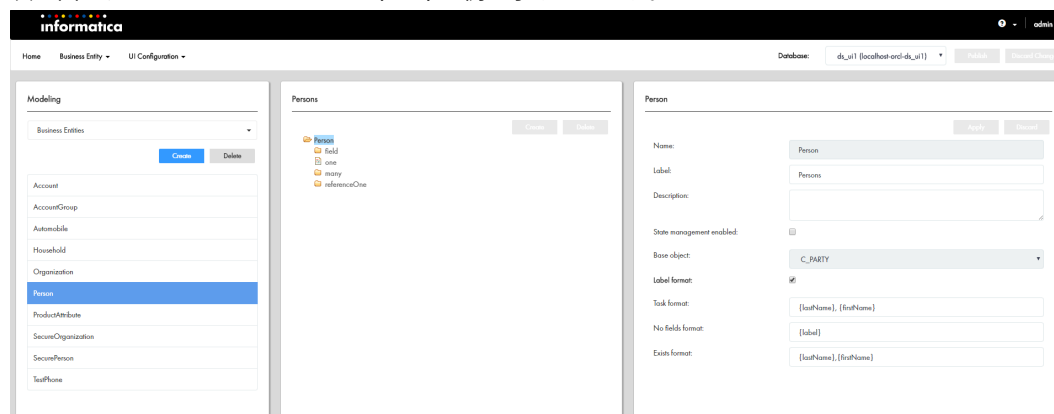
ビジネスエンティティを作成するには、ビジネスエンティティのルートノードを確立し、ルートノードのプロパティを設定します。

ビジネスエンティティルートノードの作成

ビジネスエンティティモデルを作成するには、まずビジネスエンティティのルートノードを作成します。この例では、MDM スキーマのベースオブジェクト C_PARTY に関連付けられた **Person** ビジネスエンティティを作成します。

1. プロビジョニングツールのモデリングページで、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
ビジネスエンティティ間に新しいルートノードが表示されます。
3. **【名前】** フィールドに、ビジネスエンティティの名前を入力します。
例えば、「Person」と入力します。
注: ビジネスエンティティ名にスペースは使用しないでください。
4. **【ラベル】** フィールドに、ビジネスエンティティの表示名を入力します。
例えば、「Person」と入力します。
5. 必要に応じて、ビジネスエンティティの説明を入力します。
6. 必要に応じて、**【状態管理が有効】** チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスが有効になっている場合、リポジトリマネージャの検証で、参照されるルックアップを除き、ビジネスエンティティ内のすべてのベースオブジェクトに対して状態管理が有効化されているかがチェックされます。
7. ノードのプロパティパネルで、**【ベースオブジェクト】** フィールドに移動し、ビジネスエンティティに関連付ける MDM スキーマのベースオブジェクトを選択します。
例えば、ベースオブジェクト C_PARTY を選択します。
注: ベースオブジェクトは、ルートノードをビジネスエンティティに追加する前に MDM Hub で作成されます。
8. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

次の図は、Person ビジネスエンティティの例を示しています。



関連項目：

- [「ビジネスエンティティモデルの定義の概要」 \(ページ 19\)](#)

参照エンティティルートノードの確立

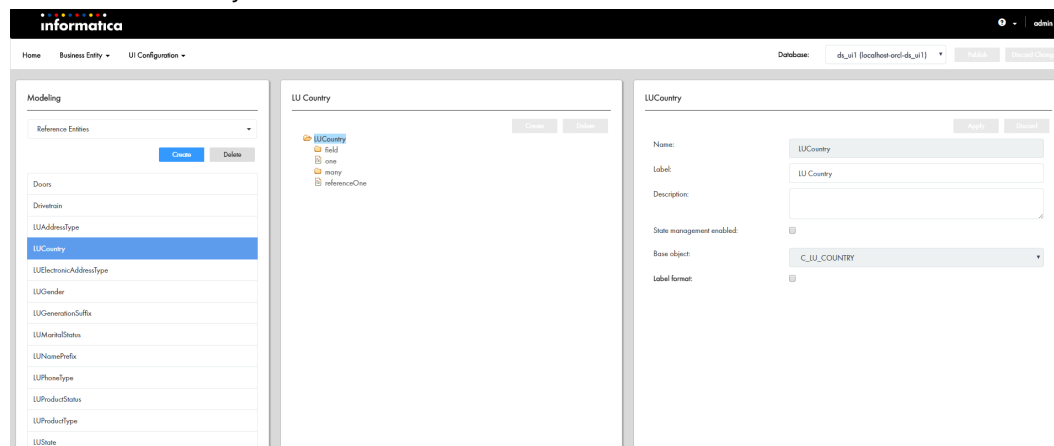
参照エンティティを作成するには、参照エンティティのルートノードを確立し、ルートノードのプロパティを設定します。

参照エンティティルートノードの作成

参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。ビジネスエンティティと同様に、まず参照エンティティのルートノードを作成します。この例では、MDM スキーマのルックアップベースオブジェクト LUCountry に関連付けられた参照エンティティを作成します。

1. プロビジョニングツールのモデリングページで、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
参照エンティティ間に新しいルートノードが表示されます。
3. **【名前】** フィールドに、参照エンティティの名前を入力します。
例えば、「LUCountry」と入力します。
注: 参照エンティティ名にスペースは使用しないでください。
4. **【ラベル】** フィールドに、参照エンティティの表示名を入力します。
例えば、「LUCountry」と入力します。
5. 必要に応じて、参照エンティティの説明を入力します。
6. 必要に応じて、**【状態管理が有効】** チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスが有効になっている場合、リポジトリマネージャの検証で、参照されるルックアップを除き、参照エンティティ内のすべてのベースオブジェクトに対して状態管理が有効化されているかがチェックされます。
7. ノードのプロパティパネルで、**【ベースオブジェクト】** フィールドに移動し、参照エンティティに関連付ける MDM スキーマのルックアップベースオブジェクトを選択します。
例えば、ベースオブジェクト C_LU_COUNTRY を選択します。
注: ルックアップベースオブジェクトは、参照エンティティルートノードを作成する前に MDM Hub で作成されます。
8. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

次の図は、LUCountry 参照エンティティの例を示しています。



関連項目：

- [「ビジネスエンティティモデルの定義の概要」 \(ページ 19\)](#)

状態管理検証の有効化

リポジトリマネージャで、ビジネスエンティティ内のすべてのベースオブジェクトで状態管理が一貫して有効化されているかをチェックできるようにするには、ルート要素で `stateManagementEnabled` 属性を `true` に設定します。デフォルトでは、`stateManagementEnabled` の値は `false` です。

プロビジョニングツールの **【状態管理が有効】** チェックボックスを使用して、状態管理を有効にできます。

`stateManagementEnabled` が `true` の場合、リポジトリマネージャの検証で、参照されるルックアップを除き、ビジネスエンティティ内のすべてのベースオブジェクトに対して状態管理が有効化されているかがチェックされます。

`stateManagementEnabled` が `false` の場合、リポジトリマネージャでは、ビジネスエンティティ内のベースオブジェクトで状態管理がすべて有効化されていることは確認されません。ビジネスエンティティには、状態管理が有効化されたベースオブジェクト、および状態管理が有効化されていないベースオブジェクトを含めることができます。

`stateManagementEnabled` の値は、リポジトリマネージャの検証チェックに影響を与えます。

`stateManagementEnabled` の値は、ランタイム操作に影響を与えません。`stateManagementEnabled` を `true` から `false` に変更すると、ベースオブジェクトに対する状態管理は無効化されません。

レコード削除とレコードチェックのストラテジの設定

MDM Hub は、デフォルトでは、常に ROWID_OBJECT 値、プライマリキー、およびソースシステムに基づいて既存のレコードを識別します。ただし、ビジネスエンティティのルート要素の多くのフィールドで、MDM

Hub が子ベースオブジェクトレコードを削除および識別する方法を決定する追加のストラテジを設定できません。

削除ストラテジ

子レコードを削除するときの動作を決定します。

【**削除ストラテジ**】 チェックボックスをオンにして、次の値の 1 つを選択します。

DISASSOCIATE

レコードはアクティブなままですが、外部キーは NULL に設定されます。デフォルトは DISASSOCIATE です。

SOFT_DELETE

レコードの論理削除を行います。MDM Hub は、HUB_STATE_IND を「-1」に設定します。

DELETE_PARENT

リレーションテーブルからレコードを削除します。子レコードは削除されません。

識別ストラテジ

既存の子レコードが存在するかを MDM Hub がどのようにチェックするかを決定します。ユーザーがビジネスエンティティに子レコードを追加するときには、MDM Hub はそのレコードが新規であるかすでに存在するかを判断します。

【**識別ストラテジ**】 チェックボックスをオンにして、次の属性を設定します。

oneRow

レコードが存在する場合の動作を決定します。

oneRow 属性には以下の値を指定できます。

ACCEPT

MDM Hub は子レコードを作成しません。デフォルトは ACCEPT です。

CREATE

MDM Hub は子レコードを作成します。

エラー

MDM Hub は子レコードを作成しません。エラーが発生する。

noRow

レコードが存在しない場合の動作を決定します。

noRow 属性には以下の値を指定できます。

CREATE

MDM Hub は子レコードを作成します。

エラー

MDM Hub は子レコードを作成しません。エラーが発生する。

第 3 章

ビジネスエンティティモデルの定義

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティモデルの定義の概要, 19 ページ](#)
- [前提条件, 20 ページ](#)
- [制約, 20 ページ](#)
- [ノードタイプ, 21 ページ](#)
- [1 対多のリレーションがあるルックアップノードの作成, 22 ページ](#)
- [1 対 1 のリレーションがあるノードの作成, 23 ページ](#)
- [1 対 1 のリレーションがあるルックアップノードの作成, 23 ページ](#)

ビジネスエンティティモデルの定義の概要

ビジネスエンティティモデルは、ノードのツリーモデルです。各ノードは、MDM Hub のベースオブジェクトテーブルに対応しています。各フィールドは、MDM Hub のベースオブジェクトテーブルのカラムに対応しています。

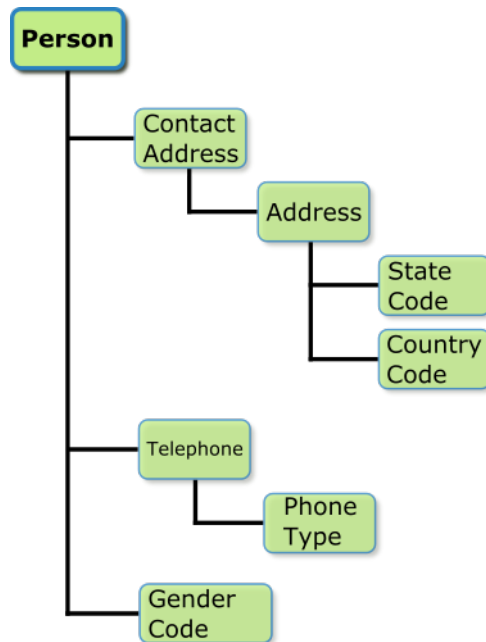
ビジネスエンティティモデルは、ルートノードに基づいています。ルートノードとビジネスエンティティは同義です。例えば、Person ルートノードのあるビジネスエンティティモデルは、Person ビジネスエンティティとみなされます。

ルートノードが確立されたら、プロビジョニングツールのツリーパネルを使用して、親ノードに対して 1 対 1 または 1 対多のリレーションがある子ノードを作成できます。

ビジネスエンティティモデルの設定例

Person ビジネスエンティティのビジネスエンティティモデルを設定しています。Person ビジネスエンティティには、会社の従業員のデータが含まれます。Person ルートノードの下に、従業員の詳細（gender、address、および phone など）のノードを追加します。

次の図は、ビジネスエンティティモデルの例を示しています。



前提条件

ビジネスエンティティモデルを設定するには、まずベースオブジェクト間のリレーションの制約を定義します。MDM Hub コンソールを使用して外部キーリレーションの制約を定義します。

ビジネスエンティティにノードを追加するには、まずベースオブジェクトを定義する必要があります。MDM Hub コンソールを使用してベースオブジェクトを定義します。

外部キーリレーションの定義とベースオブジェクトの定義の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

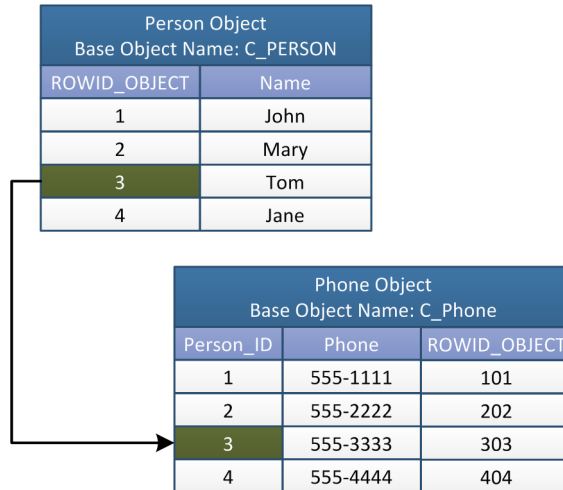
制約

MDM Hub では、外部キー制約を使用して子オブジェクトと親オブジェクト間のリレーションを保持します。ビジネスエンティティモデルでノードを作成する場合、子ノードと親ノード間のリレーションを定義する MDM Hub 制約を指定する必要があります。

外部キーは、別のテーブルのプライマリキーカラムと一致するリレーショナルテーブルのフィールドです。外部キーリレーションでは、子オブジェクトは外部キーカラムを持ち、親オブジェクトはプライマリキーカラム

を持ちます。MDM Hub では、キーを使用して親レコードを子レコードと関連付けます。子レコードの外部キーカラムには、関連付けられている親プライマリーキーの値が含まれます。

次の図は、外部キーリレーションによって Person 親オブジェクトにリンクされている Phone 子オブジェクトを示しています。



Person オブジェクトには ROWID_OBJECT というプライマリーキーカラムがあり、Phone オブジェクトには Person_ID という外部キーカラムがあります。プライマリーキー値 3 は、Tom のレコードを電話番号 555-3333 のレコードにリンクします。

制約属性には次の構文が必要です。

<child base object name: 子ベースオブジェクト名>(<foreign key column name: 外部キーカラム名>).<parent base object name: 親ベースオブジェクト名>(<zprimary key column name: プライマリーキーカラム名>)

次のコードは、例の制約属性を示しています。

```
constraint="C_PHONE(PERSON_ID).C_PERSON(ROWID_OBJECT)"
```

ノードタイプ

異なるタイプのノードを追加することによってビジネスエンティティモデルを構築します。各ノードタイプは、親ノードと子ノードのリレーションの性質を定義します。

ビジネスエンティティモデルに含めることができるノードタイプを次に示します。

ビジネスエンティティの名前

ビジネスエンティティに付けた名前が、ビジネスエンティティのルートノードを確立します。

1

親ノードと子ノードに 1 対 1 のリレーションを指定します。

例えば、Contact Address ノードと Address ノードの間の 1 対 1 のリレーションは、各連絡先住所に 1 つの住所のみを関連付けられることを示しています。個人には自宅連絡先住所と勤務先連絡先住所を設定できますが、自宅連絡先住所に関連付けられる住所は 1 つのみで、勤務先連絡先住所に関連付けられる住所も 1 つのみです。

多

親ノードと子ノードに 1 対多のリレーションを指定します。

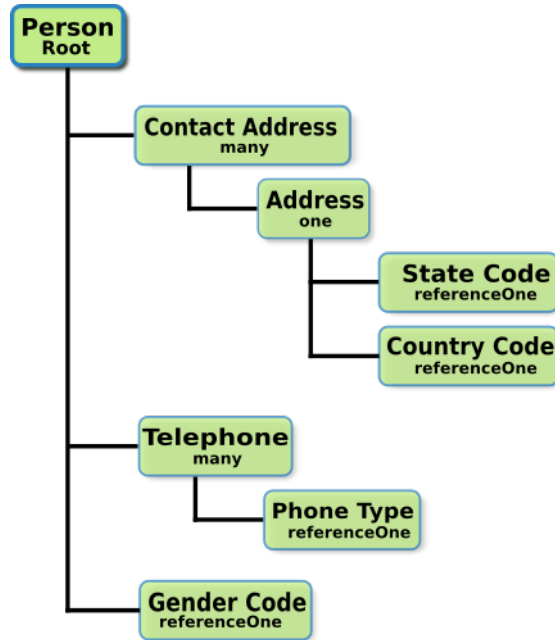
例えば、Person ノードと Telephone ノードの間の 1 対多のリレーションは、個人レコードに複数の電話番号レコードを関連付けられることを示しています。

referenceOne

親ノードと子参照エンティティノードに 1 対 1 のリレーションを指定します。

例えば、Person ノードと Gender ノードの間の referenceOne リレーションは、個人レコードに 1 つの性別値のみを関連付けられることを示しています。性別の値は、ルックアップテーブルに存在します。

次の図は、ビジネスエンティティの例の各ノードのノードタイプを示しています。



1 対多のリレーションがあるルックアップノードの作成

1 対多の子リレーションがあるノードを作成するには、ツリービューのパネルで、親ノードの下 **many** を選択し、**【作成】** をクリックします。例えば、1 人の個人には複数の電話番号を割り当てることができるため、個人ノードに対して 1 対多のリレーションがある電話子ノードを作成します。

1. ツリービューで、子ノードを作成する親ノードの矢印をクリックします。

例えば、Person ノードを展開します。

2. 親ノードの下 **many** を選択し、**【作成】** をクリックします。

3. ノードのプロパティパネルで、子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。

例えば、ベースオブジェクト C_PARTY_PHONE を選択します。

注: ベースオブジェクトは、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

4. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。

例えば、制約 C_RL_PARTY_ADDRESS(ADDRESS_ID).C_ADDRESS(ROWID_OBJECT)を選択します。

注: 制約は、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

5. ノード名とノードラベル名を入力します。必要に応じて、ノードの説明を入力します。

例えば、ノード名とノードの表示名に「Telephone」と入力します。

6. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

1 対 1 のリレーションがあるノードの作成

親ノードに対して 1 対 1 のリレーションがある子ノードを作成するには、ツリービューのパネルで、親ノードの下 の **one** を選択し、**【作成】** をクリックします。例えば、1 人の個人には 1 つの住所（自宅連絡先住所）のみを割り当てることができるため、連絡先住所ノードに対して 1 対 1 のリレーションがある住所子ノードを作成します。

1. ツリービューで、子ノードを作成する親ノードを展開します。

例えば、Contact Address を展開します。

2. 親ノードの下 の **one** を選択し、**【作成】** をクリックします。

3. ノードのプロパティパネルで、子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。

例えば、ベースオブジェクト C_ADDRESS を選択します。

注: ベースオブジェクトは、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

4. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。

例えば、制約 C_RL_PARTY_ADDRESS(ADDRESS_ID).C_ADDRESS(ROWID_OBJECT)を選択します。

注: 制約は、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

5. ノード名とノードの表示名を入力します。必要に応じて、ノードの説明を入力します。

例えば、ノード名とノードラベル名として「Address」と入力します。

6. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

1 対 1 のリレーションがあるルックアップノードの作成

親ノードに対して 1 対 1 のリレーションがある子ルックアップノードを作成するには、ツリービューのパネルで、親ノードの下 の **referenceOne** を選択し、**【作成】** をクリックします。ルックアップノードをルックアップベースオブジェクトに関連付ける必要があります。例えば、個人に対して 1 対 1 のリレーションがある性別ルックアップの子参照ノードを作成します。

1. ツリービューで、子ノードを作成する親ノードを展開します。

例えば、Person ノードを展開します。

2. 親ノードの下で **referenceOne** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. ノードのプロパティパネルで、ルックアップ子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。
例えば、ルックアップベースオブジェクト LUGender を選択します。
注: ルックアップベースオブジェクトは、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。
4. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。
例えば、制約 C_PARTY(GENDER_CD).C_LU_GENDER(GENDER_CODE)を選択します。
注: 制約は、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。
5. ノード名とノードラベル名を入力します。必要に応じて、ノードの説明を入力します。
例えば、ノード名とノードの表示名に「Gender」と入力します。
6. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

第 4 章

ビジネスエンティティのプロパティの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティのプロパティの設定の概要, 25 ページ](#)
- [フィールドのプロパティ, 25 ページ](#)
- [カスタムデータ型, 27 ページ](#)
- [Informatica Data Director のノードのラベル, 28 ページ](#)

ビジネスエンティティのプロパティの設定の概要

プロビジョニングツールの右側のパネルでビジネスエンティティのプロパティを設定します。

ビジネスエンティティのプロパティパネルで、次のタスクを実行できます。

- フィールドにフィルタを追加する。
- ノードのラベルを設定する。
- ベースオブジェクトをノードに関連付ける。ルートノードの作成時にルートノードのプロパティを設定します。詳細については、「ルートノードの確立」の章を参照してください。
- 制約を子ノードに関連付ける。ビジネスエンティティモデルの定義時に子ノードのプロパティを設定します。詳細については、「ビジネスエンティティモデルの定義」の章を参照してください。
- フィールドを検索可能にし、検索プロパティを設定する。検索可能なフィールドおよび検索プロパティの設定の詳細については、「スマート検索」の章を参照してください。

フィールドのプロパティ

フィールドのプロパティを設定することにより、フィールドをベースオブジェクトカラムに関連付けたり、データ型を指定したり、フィールドを読み取り専用としてマークしたり、フィールドを必須としてマークしたり、フィールドを検索可能にできます。

設定できるフィールドのプロパティを次に示します。

名前

ビジネスエンティティ構成ファイル内のフィールド名。

ラベル

プロビジョニングツールのツリービューに表示されるフィールド名。

読み取り専用

フィールドが編集可能かどうかを定義します。このフィールドが有効でない場合、ユーザーは、MDM Hub のベースオブジェクトフィールドに対する作成特権または更新特権があれば、エンティティビューでフィールドを編集できます。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がある場合、フィールドは Informatica Data Director で編集可能です。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がない場合、ユーザーが Informatica Data Director で変更を保存しようとするエラーが発生します。

リソース特権の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

必須

ビジネスエンティティを作成または更新するときに、ユーザーがフィールドにデータを入力する必要があるかどうかを定義します。

URI

カスタムデータ型を定義する名前空間を定義します。デフォルトは `commonj.sdo` です。

タイプ

フィールドのデータ型。デフォルトでは、データ型は、フィールドが関連付けられているルックアップベースオブジェクトカラムのデータ型にできるだけ近いものになります。ビジネスエンティティフィールドにはカスタムデータ型を定義できます。例えば、ベースオブジェクト内の文字列カラムに画像の情報が含まれている場合に、参照エンティティフィールド用にカスタム画像データ型を設定できます。

カラム

フィールドに関連付けられたベースオブジェクトカラム。フィールドをノードに追加するときにフィールドをベースオブジェクトカラムに関連付けられます。

検索可能

スマート検索要求では、検索可能なフィールドとして設定したフィールドのみを検索します。スマート検索を実行する前に、必要なフィールドを検索可能なフィールドとして設定していることを確認します。検索要求の範囲は、検索可能なフィールドの数が増えると広がります。検索可能なフィールドを複数設定すると検索要求のパフォーマンスに影響を与えることがあるため、重要ではない検索可能なフィールドは設定しないようにします。

[検索可能] プロパティを有効にするときは、次に示すスマート検索用のプロパティを追加で 1 つ以上選択します。

- 提案元
- ソート可能
- あいまい
- フィルタ可能
- ファセット
- 表示可能

必要に応じて、フィールド値の言語を指定します。デフォルトの言語は英語です。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。

フィルタ

フィルタを定義して、ユーザーがフィールドに入力できるデータを規制します。フィールドでフィルタ値しか使用できないようにするには、**IN** を指定します。フィールドでフィルタ値以外の値を使用できるようにするには、**NOT_IN** を指定します。

複数のフィルタ値を追加するには、それぞれの値をカンマで区切ります。

関連項目：

- [「カスタムデータ型」 \(ページ 27\)](#)

ノードへのフィールドの追加

ビジネスエンティティモデルでノードを作成したら、フィールドをノードに追加できます。フィールドは、ノードに関連付けられたベースオブジェクトのカラムに対応します。例えば、City フィールドを Address ノードに追加するとします。Address ノードは、CITY_NAME カラムのある C_ADDRESS ベースオブジェクトに関連付けられます。

1. ツリービューで、フィールドを追加するノードを展開します。
例えば、Address ノードを展開します。
2. 展開されたノードで、**field** を選択します。
3. ツリービューで、**【作成】** をクリックします。
4. ノードのプロパティパネルの **【新しいフィールド】** フォームで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。
例えば、**【カラム】** リストから City_Name を選択します。
注: ベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
5. フィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として「City」と入力します。
6. 必要に応じて、**【読み取り専用】** プロパティ、**【必須】** プロパティ、**【タイプ】** プロパティ、**【URI】** プロパティ、**【検索可能】** プロパティ、および **【フィルタ】** プロパティを設定します。
【検索可能】 プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。
7. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

カスタムデータ型

デフォルトでは、フィールドのデータ型は、そのフィールドが関連付けられたベースオブジェクトのカラムのデータ型と同じになります。ビジネスエンティティフィールドにはカスタムデータ型を定義できます。例えば、

ベースオブジェクトの文字列カラムにイメージの情報が含まれている場合、ビジネスエンティティフィールドにカスタムイメージデータ型を設定します。

プロビジョニングツールの外部の名前空間でカスタムデータ型を定義します。カスタムデータ型をフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義されている名前空間の場所を入力する必要があります。

Informatica では、スキーマ co-types.xsd で事前定義済みのカスタムデータ型を提供しています。urn:co-types:informatica.mdm 名前空間の co-types.xsd スキーマからカスタムデータ型を検索できます。

フィールドへのカスタムデータ型の追加

カスタムデータ型をビジネスエンティティフィールドに関連付けることができます。カスタムデータ型をフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義されているリソースの場所を入力します。例えば、image データ型を Person ビジネスエンティティのフィールドに関連付けるとします。

1. ツリービューで、フィールドを追加するノードを展開します。
例えば、**Person** ノードを展開します。
2. 展開されたノードで、**field** を選択します。
3. ツリービューで、**[作成]** をクリックします。
4. ノードのプロパティパネルの **[新しいフィールド]** フォームで、フィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として「Picture」と入力します。
5. カスタムデータ型が定義されている URI を入力します。
例えば、「urn:co-types:informatica.mdm」と入力します。
6. **[タイプ]** フィールドに、URI で定義したカスタムデータ型の名前を入力します。
image データ型の場合、**[ImageURL]** を選択します。
注: カスタムデータ型は、データ型をフィールドに追加する前に名前空間で作成されます。
7. **[カラム]** リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。
image データ型の場合、**[カラム]** リストから **[Photo_URL]** を選択します。
注: ベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
8. 必要に応じて、**[読み取り専用]** プロパティ、**[必須]** プロパティ、**[検索可能]** プロパティ、および **[フィルタ]** プロパティを設定します。
[検索可能] プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。
9. **[適用]** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

Informatica Data Director のノードのラベル

ノードラベルを設定して、Informatica Data Director でのビジネスエンティティのタイトルを定義できます。
デフォルトでは、ノード名はノードラベルの値です。ノードラベルを設定しない場合、ノード名がノードラベルとして表示されます。

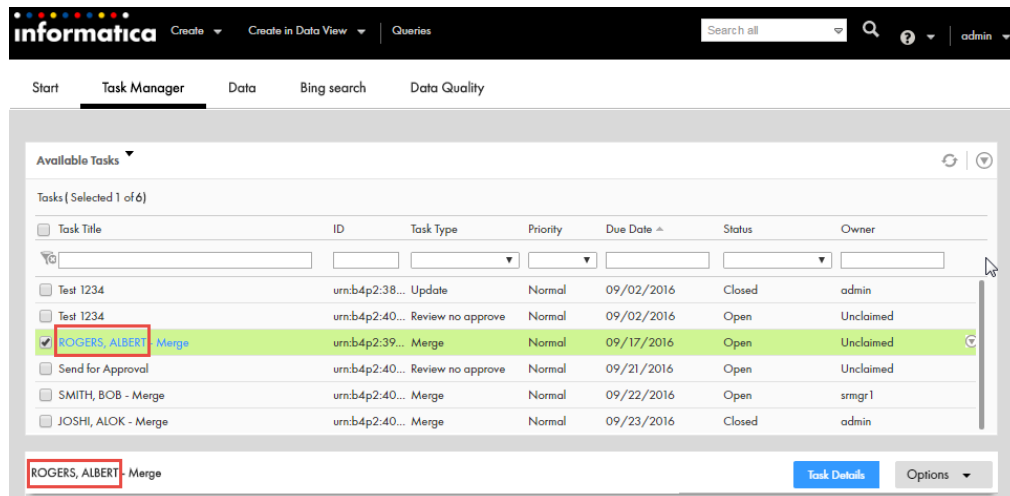
ラベルのテキストをハードコードするか、フィールド値を表示できます。フィールド値を表示するには、かつこ内にフィールド名を入力します。例えば、タイトルに姓と名の値を表示するには、「{lastName},{firstName}」を使用します。

次のノードラベルを設定できます。

タスク形式

タスクのタイトル。

次の図はタスクマネージャを示しています。設定できるタスクのタイトル部分が赤い四角で囲まれています。



この例のタスク形式値は「{lastName}, {firstName}」です。

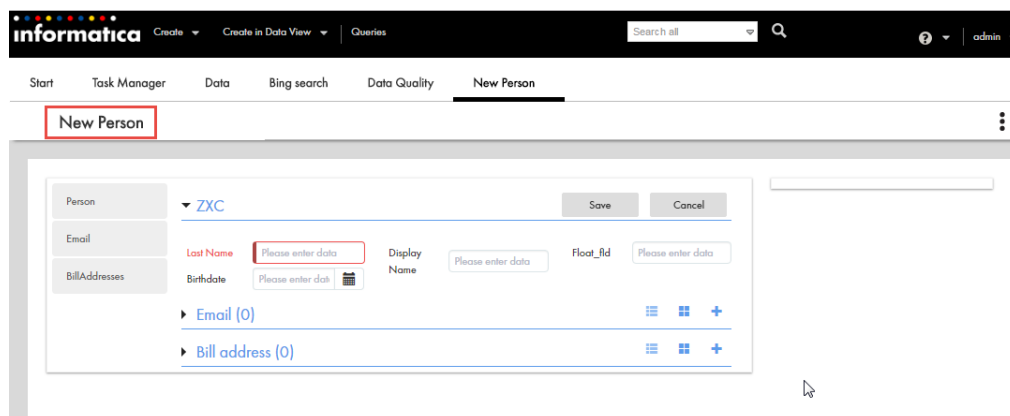
形式が存在

タイトルに設定したフィールドに値がない場合に表示されるタイトルです。

フィールド形式なし

Informatica Data Director で新しいエンティティを作成した場合に表示されるページのタイトルです。

次の図はエンティティ作成ページを示しています。タイトルは赤い四角で囲まれています。



この例の新しい形式の値は「新規 Person」です。

ノードのラベルの設定

ノードのラベルを設定するには、ノードのプロパティパネルでラベル形式を設定します。

1. ツリービューのパネルで、ノードのラベルを設定するノードを展開します。
例えば、Person ノードを展開します。
2. ノードのプロパティパネルで、**ラベル形式** チェックボックスを選択します。
3. ノードのラベルを入力します。
 - a. **タスク形式** フィールドにタスクタイトルを入力します。
例えば、タスクタイトルで姓の後に名を表示するには、「{lastName}, {firstName}」と入力します。これらのフィールドの値は、カンマ区切りでタスクタイトルに表示されます。
 - b. タイトルにフィールド値を指定したが、フィールドの**形式が存在** フィールドに値が指定されていない場合、タイトルの形式を入力します。
例えば、「Person」と入力します。
 - c. エンティティを作成するときに表示されるタイトルを**フィールド形式なし** フィールドに入力します。
例えば、「新規 Person」と入力します。

Label format:	<input checked="" type="checkbox"/>
Task format:	<input data-bbox="716 932 1338 980" type="text" value="{lastName}, {firstName}"/>
No fields format:	<input data-bbox="716 993 1338 1041" type="text" value="New Person"/>
Exists format:	<input data-bbox="716 1054 1338 1102" type="text" value="Person"/>

4. **適用** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

第 5 章

参照エンティティのプロパティの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [参照エンティティのプロパティの設定の概要, 31 ページ](#)
- [ルックアップタイプ, 31 ページ](#)
- [フィールドのプロパティ, 32 ページ](#)
- [ルックアップの設定, 34 ページ](#)

参照エンティティのプロパティの設定の概要

プロビジョニングツールの右側のパネルで参照エンティティのプロパティを設定します。

多くのユーザーの場合、参照エンティティとルックアップは同義です。

参照エンティティのプロパティパネルで、次のタスクを実行できます。

- ルックアップベースオブジェクトをノードに関連付ける。ルートノードの作成時にルートノードのプロパティを設定します。詳細については、「ルートノードの確立」の章を参照してください。
- フィールドを検索可能にし、検索プロパティを設定する。検索可能なフィールドおよび検索プロパティの設定の詳細については、「スマート検索」の章を参照してください。

ルックアップタイプ

ルックアップは、ユーザーインターフェースで選択できる値の事前定義済みのリストです。通常、エンティティ 360 フレームワークのルックアップは、参照データのリストを含むルックアップベースオブジェクトにリンクされます。例えば、性別ルックアップは C_LU_GENDER ベースオブジェクトに関連付けられます。

依存ルックアップは、2 つのルックアップテーブル間に依存性がある場合に使用されます。この典型例が、タイプテーブルとサブタイプテーブルです。サブタイプテーブルに表示される値のリストは、タイプテーブルでの選択によって異なります。また、州または都道府県の値のリストが選択した国に基づいて入力されるという依存ルックアップの例も挙げられます。

フィールドのプロパティ

フィールドのプロパティを設定することにより、フィールドをルックアップベースオブジェクトカラムに関連付けたり、データ型を指定したり、フィールドを読み取り専用としてマークしたり、フィールドを必須としてマークしたり、フィールドを検索可能にしたりできます。

設定できるフィールドのプロパティを次に示します。

名前

参照エンティティ構成ファイル内のフィールド名。

ラベル

プロビジョニングツールのツリービューに表示されるフィールド名。

読み取り専用

フィールドが編集可能かどうかを定義します。このフィールドが有効でない場合、ユーザーは、MDM Hub のベースオブジェクトフィールドに対する作成特権または更新特権があれば、エンティティビューでフィールドを編集できます。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がある場合、フィールドは Informatica Data Director で編集可能です。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がない場合、ユーザーが Informatica Data Director で変更を保存しようとするエラーが発生します。

リソース特権の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

必須

ビジネスエンティティを作成または更新するときに、ユーザーがフィールドにデータを入力する必要があるかどうかを定義します。

URI

カスタムデータ型を定義する名前空間を定義します。デフォルトは `commonj.sdo` です。

タイプ

フィールドのデータ型。デフォルトでは、データ型は、フィールドが関連付けられているルックアップベースオブジェクトカラムのデータ型にできるだけ近いものになります。ビジネスエンティティフィールドにはカスタムデータ型を定義できます。例えば、ベースオブジェクト内の文字列カラムに画像の情報が含まれている場合に、参照エンティティフィールド用にカスタム画像データ型を設定できます。

カラム

フィールドに関連付けられているルックアップベースオブジェクトカラム。フィールドをノードに追加するときにフィールドをベースオブジェクトカラムに関連付けられます。

検索可能

スマート検索要求では、検索可能なフィールドとして設定したフィールドのみを検索します。スマート検索を実行する前に、必要なフィールドを検索可能なフィールドとして設定していることを確認します。検索要求の範囲は、検索可能なフィールドの数が増えると広がります。検索可能なフィールドを複数設定すると検索要求のパフォーマンスに影響を与えることがあるため、重要ではない検索可能なフィールドは設定しないようにします。

[検索可能] プロパティを有効にするときは、次に示すスマート検索用のプロパティを追加で 1 つ以上選択します。

- 提案元

- ソート可能
- あいまい
- フィルタ可能
- ファセット
- 表示可能

必要に応じて、フィールド値の言語を指定します。デフォルトの言語は英語です。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。

フィルタ

フィルタを定義して、ユーザーがフィールドに入力できるデータを規制します。フィールドでフィルタ値しか使用できないようにするには、**IN** を指定します。フィールドでフィルタ値以外の値を使用できるようにするには、**NOT_IN** を指定します。

ノードへのフィールドの追加

参照エンティティ構造でノードを作成したら、フィールドをノードに追加できます。フィールドは、ノードに関連付けられたルックアップベースオブジェクトのカラムに対応します。例えば、Gender Code フィールドを LU Gender ノードに追加するとします。LU Gender ノードは、Gender_Code カラムのある C_LU_GENDER ルックアップベースオブジェクトに関連付けられます。

1. ツリービューで、フィールドを追加するノードを展開します。
例えば、LU Gender ノードを展開します。
2. 展開されたノードで、**field** を選択します。
3. ツリービューで、**【作成】** をクリックします。
4. ノードのプロパティパネルの [新しいフィールド] フォームで、[カラム] リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。
例えば、[カラム] リストから Gender_Code を選択します。
注: ベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
5. フィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として「Gender Code」と入力します。
6. 必要に応じて、[読み取り専用] プロパティ、[必須] プロパティ、[タイプ] プロパティ、[URI] プロパティ、[検索可能] プロパティ、および [フィルタ] プロパティを設定します。
[検索可能] プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。
7. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

ルックアップの設定

ルックアップを設定するには、ツリービューのパネルで新しい参照エンティティを作成し、ルートノードをルックアップベースオブジェクトに関連付けます。例えば、C_LU_GENDER ルックアップベースオブジェクトに関連する性別ルックアップ参照エンティティを作成します。

1. ツリービューで、子ノードを作成する親ノードを展開します。
例えば、LU Gender ノードを展開します。
2. 展開されたノードで、**field** を選択します。
3. ツリービューで、**【作成】** をクリックします。
4. ノードのプロパティパネルの **【新しいフィールド】** フォームで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるルックアップベースオブジェクトのカラムを選択します。
例えば、**【カラム】** リストから Gender_Code を選択します。
注: ルックアップベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
5. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として「Gender Code」と入力します。
6. 別のフィールドを作成します。この例では、**【カラム】** リストから Gender_Disp を選択します。
7. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。この例では、フィールド名とフィールドラベル名に「Gender Disp」と入力します。
8. 必要に応じて、作成したフィールドの **【読み取り専用】** プロパティ、**【必須】** プロパティ、**【タイプ】** プロパティ、**【URI】** プロパティ、**【検索可能】** プロパティ、**【フィルタ】** プロパティを設定します。
【検索可能】 プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。
9. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

依存ルックアップの設定

依存ルックアップを設定するには、ツリービューのパネルで新しい参照エンティティを作成し、ルートノードをルックアップベースオブジェクトに関連付けます。次に、ルックアップ内に 1 対多のリレーションを作成するには、ツリービューのパネルで、親ノードの下で **many** を選択し、**【作成】** をクリックします。例えば、C_LU_COUNTRY ルックアップベースオブジェクトに関連する国ルックアップ参照エンティティを作成します。

1. ツリービューで、子ノードを作成する親ノードを展開します。
例えば、LU Country ノードを展開します。
2. 展開されたノードで、**field** を選択します。
3. ツリービューで、**【作成】** をクリックします。
4. ノードのプロパティパネルの **【新しいフィールド】** フォームで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。
例えば、**【カラム】** リストから Country_Code を選択します。
注: ベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
5. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドの表示名に「Country Code」と入力します。

6. 別のフィールドを作成します。この例では、[カラム] リストから Country_Name_Disp を選択します。
7. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。この例では、フィールド名とフィールドラベル名として「Country Name Disp」と入力します。
8. 必要に応じて、作成したフィールドの [読み取り専用] プロパティ、[必須] プロパティ、[タイプ] プロパティ、[URI] プロパティ、[検索可能] プロパティ、[フィルタ] プロパティを設定します。
[検索可能] プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティについては、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』の「スマート検索」の章を参照してください。
9. 親ノードの下で **many** を選択し、**[作成]** をクリックします。
10. ノードのプロパティパネルで、ルックアップ子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。
例えば、ルックアップベースオブジェクト C_LU_State を選択します。
11. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。
例えば、制約 C_LU_STATE(COUNTRY_CODE).C_LU_COUNTRY(COUNTRY_CODE)を選択します。
注: 制約は、ビジネスエンティティ構造を設定する前に MDM Hub で作成されます。
12. 必要に応じて、ノード名、ノードラベル名、およびノードの説明を入力します。
例えば、ノード名とノードラベル名として「LU State」と入力します。
13. **[適用]** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

第 6 章

ビジネスエンティティとビューの変換

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティとビューの変換の概要, 36 ページ](#)
- [トランスフォーメーションのソースおよびターゲット, 37 ページ](#)
- [クレンジングトランスフォーメーション, 38 ページ](#)
- [読み取りおよび書き込みプロセスでのトランスフォーメーション, 38 ページ](#)
- [ビジネスエンティティビューのモデル化, 40 ページ](#)
- [ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションの設定, 41 ページ](#)
- [ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定, 42 ページ](#)
- [ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定, 44 ページ](#)
- [トランスフォーメーションの削除, 45 ページ](#)

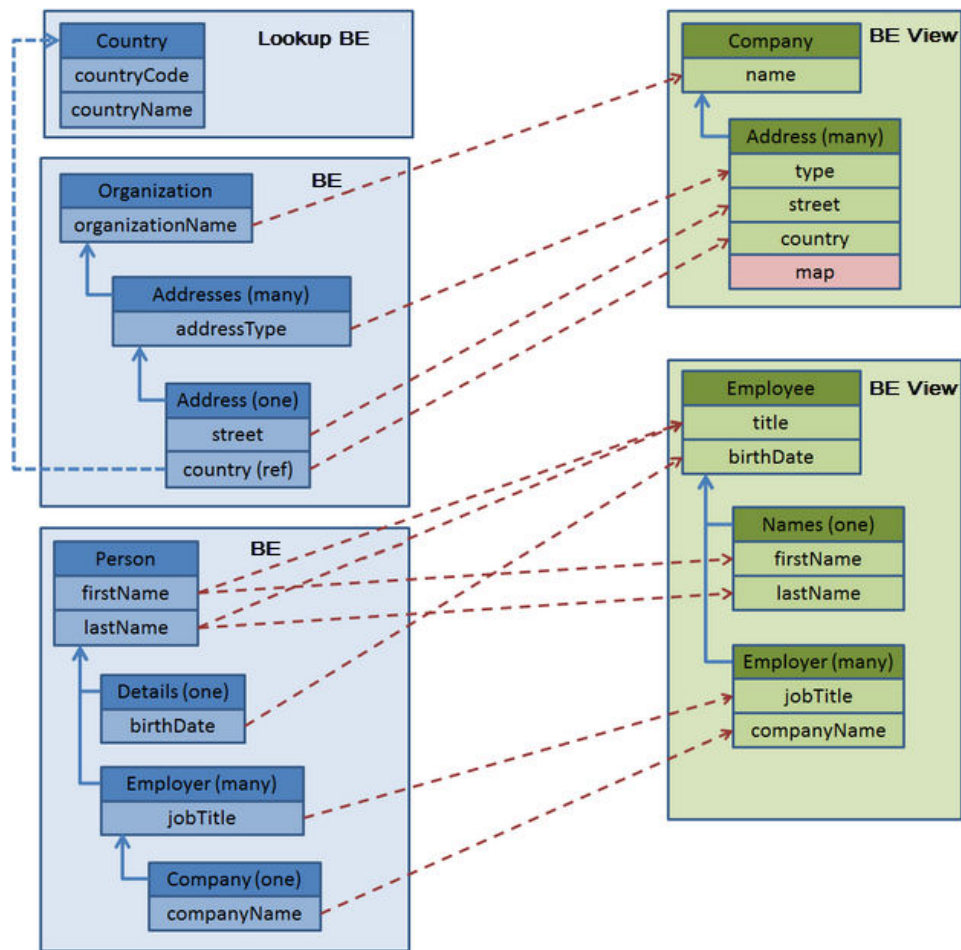
ビジネスエンティティとビューの変換の概要

ビジネスエンティティは、組織の 1 つのエンティティの包括的で全体的な定義を表します。ただし、組織内のユーザーや部署に必要なのは一部のビジネスエンティティのみである場合があります。このような場合、ビジネスエンティティは「ビジネスエンティティビュー」と呼ばれる圧縮バージョンに変換できます。

IDD または Web アプリケーションがビジネスエンティティビューに対して読み取りまたは書き込みを行う場合、読み取りまたは書き込みサービスでトランスフォーメーションが実行されます。IDD または Web アプリケーションでビジネスエンティティビューを使用する場合は、読み取り操作のためにビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションを設定し、書き込みイベントのためにビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定する必要があります。

クレンジングトランスフォーメーションを設定して、トランスフォーメーション中にデータの検証とクレンジングを行うことができます。また、DaaS を使用するようにトランスフォーメーションを設定して、ビジネスエンティティのデータをエンリッチ化することも可能です。

次の図は、構造が簡素化された2つのビジネスエンティティビューに変換される2つのビジネスエンティティを示しています。



ビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへのトランスフォーメーションを設定するには、まずビジネスエンティティビューを作成し、次にトランスフォーメーションをマッピングします。ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションを作成するには、ビューの構造をモデル化します。ビューをモデル化したら、ビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへトランスフォーメーションをマッピングします。

トランスフォーメーションのソースおよびターゲット

プロビジョニングツールでは、次のソースとターゲットの組み合わせでトランスフォーメーションを設定できます。

ビジネスエンティティからビュー

ビジネスエンティティの一部をビジネスエンティティビューとして設定して、簡単にコンシュームできるオブジェクトを作成できるようにします。例えば、ビジネスプロセス、ユーザー、または部門が必要とす

るフィールドのみが含まれるビューを設定できます。ビジネスエンティティに対して検索やアクセスを行うときは、トランスフォーメーションを表示するビジネスエンティティが必要です。

ビューからビジネスエンティティ

ビジネスエンティティビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定して、ビューに対するデータ更新を行えるようにします。データはビジネスエンティティに格納されているため、ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションによってビューへのデータ変更がプロパゲートされます。ビジネスエンティティを作成するときは、ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションが必要です。

ビジネスエンティティからビジネスエンティティ

ビジネスエンティティの検証およびデータクレンジングの設定に使用します。ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションのためのクレンジングトランスフォーメーションは、すべてのビジネスエンティティビューに対する書き込みプロセス時に適用されます。

ビジネスエンティティから XML

DaaS 設定に使用します。

XML からビジネスエンティティ

DaaS 設定に使用します。

クレンジングトランスフォーメーション

クレンジングタイプのトランスフォーメーションを、クレンジング関数を使用してデータをクレンジング、標準化、検証するように設定できます。

次に挙げるのは、クレンジングトランスフォーメーションの使用方法の一例です。

- 指定された名と姓を連結する
- Doctor のすべてのインスタンスを Dr.に標準化する
- 郵便アドレスを検証する

クレンジング関数の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

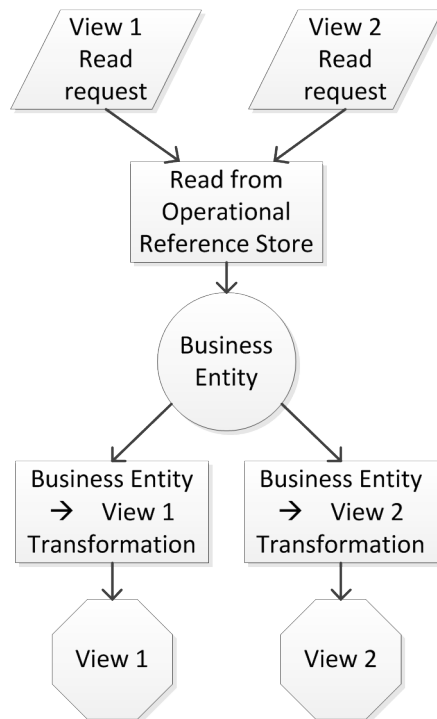
読み取りおよび書き込みプロセスでのトランスフォーメーション

ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションおよびビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションは、ビジネスエンティティの読み取りプロセスに関与します。ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションおよびビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションは、書き込みプロセスに関与します。

読み取りプロセスでは、ビジネスエンティティビューが表示されると、次のプロセスが実行されます。

1. データがオペレーショナル参照ストアから読み取られます。
2. ビジネスエンティティがビジネスエンティティビューに変換されます。

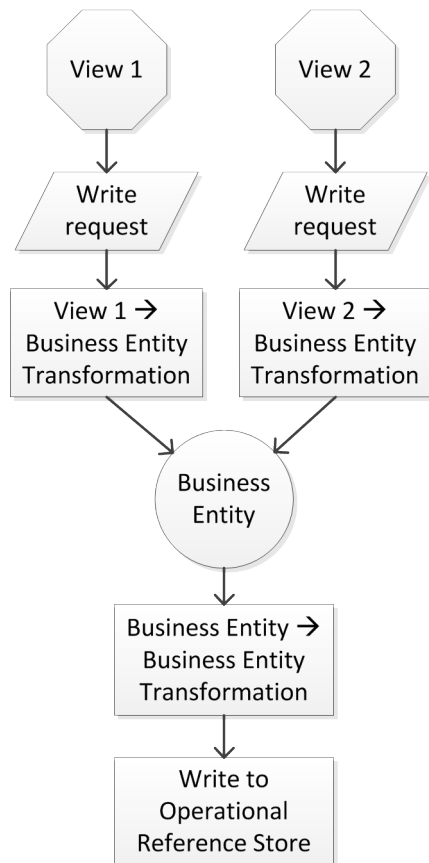
次の図は、ビジネスエンティティの読み取りプロセスにおけるトランスフォーメーションを示しています。



書き込みプロセスでは、データ変更が行われると、次のプロセスが実行されます。

1. ビューがビジネスエンティティに変換されます。
2. ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションによって、データが検証されクレンジングされます。
3. データがオペレーショナル参照ストアに書き込まれます。

次の図は、ビジネスエンティティの書き込みプロセスにおけるトランスフォーメーションを示しています。



ビジネスエンティティビューのモデル化

トランスフォーメーションを設定する前に、ビジネスエンティティビューを作成して設定する必要があります。ビジネスエンティティビューをモデル化するには、プロビジョニングツールを使用して構造を定義します。

ビジネスエンティティビューを設定するには、以下の手順を実行します。

- ビジネスエンティティビューのルートノードを作成する
- 子ノードを作成する
- フィールドをルートノードおよび子ノードに追加する

ビジネスエンティティビューのルートノードの確立

ビジネスエンティティビューを作成するときは、最初にルートノードを確立します。

1. プロビジョニングツールで、**【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** を選択します。
2. ルートノードのパネルのリストから **【ビジネスエンティティビュー】** を選択し、**【作成】** をクリックします。

ビジネスエンティティビューのルートノードが、ルートノードのパネルに表示されます。

3. ノードのプロパティのパネルで、ビューの名前とラベルを入力して、ビューに関連付けるビジネスエンティティを選択します。
選択したビジネスエンティティが、ビューに変換するエンティティです。
4. **【適用】** をクリックします。

フィールドの追加

ルートノードを確立したら、ビューに変換するビジネスエンティティからルートノードフィールドを追加します。

1. ツリービューで、ルートノードを展開します。
2. ルートノードの下 **field** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルにフィールド名を入力します。
その他のすべてのフィールドおよび選択項目は省略可能です。詳細については、[「フィールドのプロパティ」 \(ページ 25\)](#) を参照してください。
4. **【適用】** をクリックします。

子ノードの追加

親と 1 対 1 または 1 対多のリレーションを持つ子ノードを追加できます。

1. 子ノードが親ノードとの間に持つリレーションのタイプを選択します。
 - 1 対 1 のリレーションを持つ子を追加するには、**viewOne** を展開し、**【作成】** をクリックします。
 - 1 対多のリレーションを持つ子を追加するには、**viewMany** を展開し、**【作成】** をクリックします。
2. 子ノードの名前を入力し、必要に応じてラベルを入力します。
3. **【適用】** をクリックします。
4. ルートノードにフィールドを追加したときと同じ方法で、子ノードにフィールドを追加します。

ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションの設定

ビジネスエンティティフィールドをビジネスエンティティビューフィールドにマッピングするためのトランスフォーメーションを設定します。

トランスフォーメーションをマッピングするには、以下の手順を実行します。

- トランスフォーメーショングループを作成して、1 対多の子トランスフォーメーションを含めます。
- 直接トランスフォーメーションを追加して、ビジネスエンティティフィールドをビジネスエンティティビューフィールドにマッピングします。

1 対多の子ノードのトランスフォーメーションの設定

子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。

2. **グループフォルダ**を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、group フォルダで表示するノードの名前を入力します。
4. **【ソース】** フィールドでビジネスエンティティの子ノードを選択し、**【ターゲット】** フィールドでビューの子ノードを選択します。
5. それぞれの子ノードについてステップ1~4を繰り返します。
6. **【適用】** をクリックします。

これで、子ノードのトランスフォーメーションを設定できるようになりました。

直接トランスフォーメーションの設定

データを変更せずに、ビジネスエンティティフィールドからビューフィールドにデータを直接マッピングできます。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。
2. **【トランスフォーメーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、**【名前】** フィールドにトランスフォーメーションの名前を入力します。
4. **【タイプ】** フィールドで **【直接】** を選択します。
5. **【入力フィールド】** カラムで、ビューにマッピングするビジネスエンティティフィールドを選択します。
6. オプション: 入力フィールドも出力フィールドも未定義の場合は、**【値】** フィールドに入力定数を入力します。
7. **【出力フィールド】** カラムで、ビジネスエンティティフィールドのマッピング先となるビューフィールドを選択します。
8. **【適用】** をクリックします。

ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定

ビジネスエンティティビューをビジネスエンティティにマッピングするためのトランスフォーメーションを設定します。

データを変更せずにビューにマッピングするようにトランスフォーメーションを設定できます。ビジネスエンティティビューに入力されたデータをビジネスエンティティに移動する前にクレンジングして検証できるように、クレンジング関数でデータを変換することもできます。

トランスフォーメーションをマッピングするには、以下の手順を実行します。

- トランスフォーメーショングループを作成して、1対多の子トランスフォーメーションを含めます。
- トランスフォーメーションを追加し、ビューフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。次のタイプのトランスフォーメーションを設定できます。
 - データを変更せずに移動するための直接トランスフォーメーション。
 - データがビジネスエンティティに入力される前に変換するためのクレンジングトランスフォーメーション。

子ノードのトランスフォーメーションの設定

子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。
2. **グループ**フォルダを選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、group フォルダで表示するノードの名前を入力します。
4. **【ソース】** フィールドでビューの子ノードを選択し、**【ターゲット】** フィールドでビジネスエンティティの子ノードを選択します。
5. それぞれの子ノードについてステップ 1~4 を繰り返します。
6. **【適用】** をクリックします。

これで、子ノードのトランスフォーメーションを設定できるようになりました。

直接トランスフォーメーションの設定

データを変換せずに、ビューフィールドからビジネスエンティティフィールドにデータを直接マッピングできます。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。
2. **【トランスフォーメーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、**【名前】** フィールドにトランスフォーメーションの名前を入力します。
4. **【タイプ】** フィールドで **【直接】** を選択します。
5. **【入力フィールド】** カラムで、ビューにマッピングするビューフィールドを選択します。
6. オプション: 入力フィールドも出力フィールドも未定義の場合は、**【値】** フィールドに入力定数を入力します。
7. **【出力フィールド】** カラムで、ビジネスエンティティフィールドのマッピング先となるビジネスエンティティフィールドを選択します。
8. **【適用】** をクリックします。

クレンジングトランスフォーメーションの設定

ビジネスエンティティフィールドをビューフィールドにマッピングするときに、クレンジングトランスフォーメーションでデータをクレンジングすることを選択できます。このクレンジングトランスフォーメーションは、その特定のビジネスエンティティビューに対する書き込み操作のためにデータをクレンジングします。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。
2. **【トランスフォーメーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、**【名前】** フィールドにトランスフォーメーションの名前を入力します。
4. **【タイプ】** リストから **cleanse** を選択します。
5. **【MDM クレンジングライブラリ】** リストから、データを変換するために使用するクレンジング関数が含まれるクレンジングライブラリを選択します。
6. クレンジング関数から要求された場合は、**【ステータス - 成功】** フィールドと **【ステータスの出力】** フィールドにメッセージを入力します。
7. **【関数】** リストからクレンジング関数を選択してデータを変換します。
8. **【入力パラメータ】** セクションで、ビジネスエンティティフィールドへの入力として使用するビューフィールドを選択します。

9. オプション: **【連結】** などの関数を使用するときに、区切り値を入力するには、**【値】** フィールドに入力定数を入力します。
10. **【出力パラメータ】** セクションで、ビジネスエンティティビューフィールドを選択して変換されたデータを受信します。
11. **【適用】** をクリックします。

ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定

エンティティデータをクレンジングするために、ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定します。

ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定するには、以下の手順を実行します。

- トランスフォーメーショングループを作成して、1 対多の子トランスフォーメーションを含めます。
- クレンジングトランスフォーメーションを追加し、ビジネスエンティティフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。

子ノードのトランスフォーメーションの設定

子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。
2. **グループ**フォルダを選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、group フォルダで表示するノードの名前を入力します。
4. **【ソース】** フィールドでビジネスエンティティの子ノードを選択し、**【ターゲット】** フィールドでビジネスエンティティの同じ子ノードを選択します。それぞれの子ノードについて繰り返します。
5. **【適用】** をクリックします。

これで、子ノードのトランスフォーメーションを設定できるようになりました。

クレンジングトランスフォーメーションの設定

クレンジングトランスフォーメーションは、それ自体にマッピングするビジネスエンティティフィールドに適用できます。このクレンジングトランスフォーメーションは、すべてのビジネスエンティティビューに対する書き込み操作のためにデータをクレンジングします。

1. ツリービューで、トランスフォーメーションのフォルダを展開します。
2. **【トランスフォーメーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルで、**【名前】** フィールドにトランスフォーメーションの名前を入力します。
4. **【タイプ】** リストから **cleanse** を選択します。
5. クレンジング関数から要求された場合は、**【ステータス - 成功】** フィールドと **【ステータスの出力】** フィールドにメッセージを入力します。

6. **【MDM クレンジングライブラリ】** リストから、データを変換するために使用するクレンジング関数が含まれるクレンジングライブラリを選択します。
7. **【関数】** リストからクレンジング関数を選択してデータを変換します。
8. **【入力パラメータ】** セクションで、入力として使用するビジネスフィールドを選択します。
9. オプション: **【連結】** などの関数を使用するときに、区切り値を入力するには、**【値】** フィールドに入力定数を入力します。
10. **【出力パラメータ】** セクションで、ビジネスエンティティビューフィールドを選択して変換されたデータを受信します。
11. **【適用】** をクリックします。

トランスフォーメーションの削除

トランスフォーメーションを削除できます。コンポーネントまたは拡張のベースとなるトランスフォーメーションを削除すると、そのコンポーネントおよび拡張が削除されます。

第 7 章

多対多のリレーションの管理

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティリレーションの概要, 46 ページ](#)
- [関連レコード（ビューモード）, 46 ページ](#)
- [関連レコード（編集モード）, 47 ページ](#)
- [リレーションに関連付けられた追加属性, 48 ページ](#)
- [前提条件, 48 ページ](#)
- [多対多のリレーションの設定, 48 ページ](#)

ビジネスエンティティリレーションの概要

リレーションは、2つのエンティティ間の関係を記述します。MDM Hub では、同じビジネスエンティティ内のレコード間の階層リレーションに加えて、ビジネスエンティティ間の 1 対多および多対多のリレーションもサポートされます。ビジネスエンティティとそれに関連するレコード間のリレーションを表示、追加、編集、および管理できます。

プロビジョニングツールで多対多のリレーションを設定します。Informatica Data Director のユーザーインターフェースのレイアウトを設計し、エンティティビューを作成します。関連レコードのコンポーネントを追加して、エンティティビューで開いているエンティティに直接関連しているエンティティを表示します。

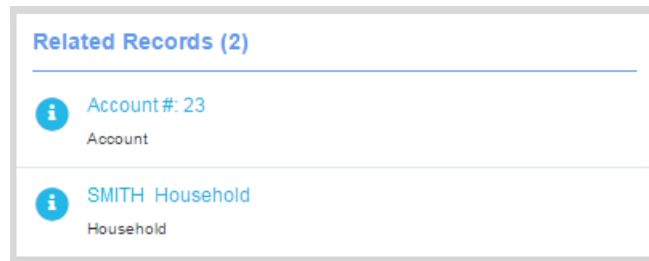
関連レコードの標準コンポーネントおよびカスタムコンポーネントをエンティティビューに追加できます。エンティティに直接関連するエンティティを表示するには、関連レコードの標準コンポーネントを使用します。ビジネスエンティティとその他のレコード間のリレーションを表示、追加、編集、および削除するには、カスタム関連レコードコンポーネントを使用します。

関連レコード（ビューモード）

ビューモードの関連レコードコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。コンポーネントは、エンティティビューで開かれるビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティの一覧を表示します。コンポーネント内の各関連ビジネスエンティティは、エンティティビューで開くことができるリンクになっています。

エンティティビューで関連レコードを表示するには、エンティティビューのベースにするビジネスエンティティモデルに対して、必ずリレーションが定義されている必要があります。[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルを作成し、ビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。

次の図は、個人ビジネスエンティティに関連するビジネスエンティティの一覧がエンティティビューに表示されている、関連レコードコンポーネントの例を示しています。



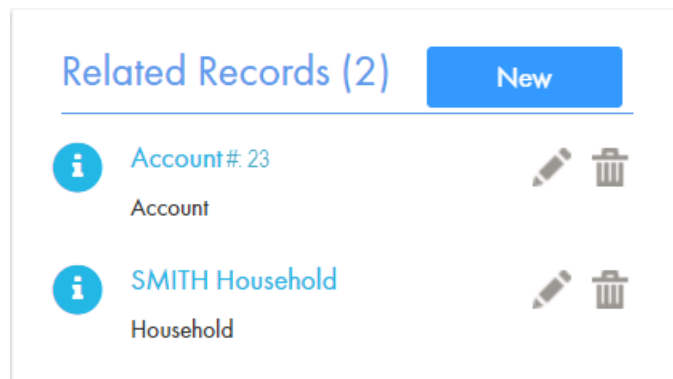
関連レコード（編集モード）

編集モードの関連レコードコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できるカスタムコンポーネントです。コンポーネントは、エンティティビューで開かれるビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティの一覧を表示します。コンポーネント内の各関連ビジネスエンティティは、エンティティビューで開くことができるリンクになっています。

編集モードの関連レコードコンポーネントを使用して、関連レコードコンポーネントに表示されるビジネスエンティティのリレーションを追加、編集、および削除できます。関連レコードコンポーネントをエンティティビューレイアウトに追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

エンティティビューで関連レコードを表示するには、エンティティビューのベースにするビジネスエンティティモデルに対して、必ずリレーションが定義されている必要があります。[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルを作成し、ビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。

次の図は、個人ビジネスエンティティに関連するビジネスエンティティの一覧がエンティティビューに表示されている、関連レコードコンポーネントの例を示しています。



リレーションに関連付けられた追加属性

ビジネスエンティティのリレーションには、追加属性が関連付けられている場合があります。例えば、組織と個人の間のリレーションには、従業員の給与や役職などの追加属性がある場合があります。個人と自動車の間のリレーションには、購入日、燃費、価格などの属性がある場合があります。

リレーションの設定時に必要な追加属性を指定できます。リレーションの作成時にこれらの属性がユーザーインターフェースに表示されます。プロビジョニングツールでビジネスエンティティリレーションを設定する場合、追加属性を指定できます。これらの属性を編集できるのは、ビジネスエンティティと関連レコード間のリレーションを編集するときです。

注: リレーションを保持するベースオブジェクトには、追加する属性に対応するカラムが必要です。

前提条件

ビジネスエンティティリレーションを設定する前に、次の前提条件タスクを実行します。

1. MDM Hub のベースオブジェクトを作成します。
2. ビジネスエンティティ構造を定義します。
3. 管理するリレーションタイプを作成します。
4. リレーションの属性をさらに追加する場合は、リレーションを保持するベースオブジェクトに、必要なカラムが存在していることを確認します。

多対多のリレーションの設定

ビジネスエンティティリレーションは、プロビジョニングツールで設定します。

注: Informatica Data Director を使用してビジネスエンティティを表示する場合は、サブジェクト領域設定からビジネスエンティティを生成できます。ビジネスエンティティの生成時、それらの間にリレーションが存在する場合は、リレーションも生成されます。

ビジネスエンティティと関連レコード間のリレーションを表示、追加、編集、削除するには、プロビジョニングツールで以下の手順を実行します。

1. ビジネスエンティティ間のリレーションを設定します。
2. エンティティビューでリレーションを表示するように関連レコードコンポーネントを設定します。必要に応じて、それぞれのタイプのリレーションにつき 1 つずつ、複数の関連レコードのコンポーネントを作成します。
3. エンティティまたはリレーションタイプで関連レコードをフィルタリングする場合、フィルタを関連レコードのコンポーネントに追加します。
4. エンティティのレイアウトを設計し、ビジネスエンティティの関連レコードコンポーネントを追加して、設定を MDM Hub にパブリッシュします。

リレーションの設定

ビジネスエンティティ間のリレーションを設定するときに、2つのベースオブジェクト間のリレーションを作成します。プロビジョニングツールで2つのビジネスエンティティ間のリレーションを作成します。

1. プロビジョニングツールにログインし、[ORS] を選択します。
2. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックします。
3. **【モデリング】** リストから **【リレーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
設定する必要のあるフィールドが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のリレーションのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	リレーションの一意の名前。
ラベル	Informatica Data Director のユーザーインターフェースに表示されるリレーションのラベル。
説明	リレーションのわかりやすい説明。
表示名	エンティティのレイアウトに表示される名前。
双方向	リレーションの方向が双方向かどうかを示します。
状態管理が有効	状態管理が有効かどうかを示す。

5. **【ベースオブジェクト】** リストから、2つのベースオブジェクト間のリレーションを保つ MDM スキーマからのベースオブジェクトを選択します。
6. **【親ビジネスエンティティ】** リストでベースオブジェクトを選択します。このベースオブジェクトがリレーションの最初のエンティティとなります。
7. **【親制約】** フィールドで、外部キーが参照するカラムを選択します。
8. **【子ビジネスエンティティ】** リストからベースオブジェクトを選択します。このベースオブジェクトがリレーションの2番目のエンティティとなります。
【親ビジネスエンティティ】 と **【子ビジネスエンティティ】** により、リレーションの方向が指定されます。
9. **【子制約】** フィールドで、外部キーが参照するカラムを選択します。
10. 必要に応じて、UI でラベルを表示するには、**【ラベル形式】** チェックボックスを選択し、以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
形式が存在	リレーションを表示した場合に表示されるタイトル。
フィールド形式なし	[形式が存在] のすべてのフィールドに NULL 値がある場合に表示されるタイトル。

11. **【適用】** をクリックします。
リレーションがルートノードパネルに表示されます。

12. リレーションの追加属性を追加するには、リレーションの作成時または表示時にユーザーインターフェースに表示されるフィールドを指定します。
- a. ツリーノードの下で **field** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	フィールドの名前。
ラベル	ユーザーインターフェースのフィールドの表示名。
読み取り専用	フィールドが読み取り専用かどうかを示す。
必須	リレーションの作成時にフィールドを指定する必要があるかどうかを示す。
URI	カスタムデータ型をビジネスエンティティフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義される URI。
タイプ	URI で定義するカスタムデータ型の名前。URI プロパティとともに使用。
カラム	ビジネスエンティティフィールド。
検索可能	フィールドが検索可能かどうかを示す。 注: [検索可能] プロパティを有効にすると、[検索可能設定] フィールドが表示されます。検索プロパティの詳細については、「スマート検索」の章を参照してください。
フィルタ	ユーザーがフィールドに入力できるデータを指定する。 注: [フィルタ] プロパティを有効にすると、フィルタの動作に関連したプロパティが表示されます。フィルタの動作プロパティとフィルタリング済みの値を指定します。
演算子	フィールドでフィルタ値しか使用できないようにするには、IN を指定します。フィールドでフィルタ値以外の値を使用できるようにするには、NOT_IN を指定します。
値	フィルタ値。

- c. **【適用】** をクリックします。
- d. 追加属性としてリレーションに追加するフィールドごとに、手順 a から c を繰り返します。

次の図は、追加属性のフィールドを持つビジネスエンティティリレーションの設定例を示しています。

PersonToAutomobile Relationship

PersonToAutomobile

field

purchaseDate

price

mileage

referenceOne

Create

Delete

PersonToAutomobile

Apply

Discard

Name:

PersonToAutomobile

Label:

PersonToAutomobile Relationship

Description:

Bidirectional:

☐

State management enabled:

☒

Base object:

C_RL_PARTY_AUTO

Parent Business Entity:

Person

Parent constraint:

C_RL_PARTY_AUTO(PARTY_ID),C_PARTY(ROWID_OB)

Child Business Entity:

Automobile

Child constraint:

C_RL_PARTY_AUTO(AUTOMOBILE_ID),C_AUTOMOB

Label format:

☐

関連レコードのコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで関連レコードのコンポーネントを作成します。関連レコードのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. プロビジョニングツールで、**[UI 設定]** > **[コンポーネントエディタ]** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. 関連レコードのコンポーネントを作成します。
 - a. **[コンポーネント]** タイプのリストから **[関連レコード]** を選択し、**[作成]** をクリックします。
 - b. **[プロパティ]** パネルで、以下の関連レコードのコンポーネントのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	[コンポーネント] パネルに表示される関連レコードのコンポーネントの名前。
ラベル	レイアウトデザイナーのワークスペースでコンポーネントのコンポーネントリストに表示される関連レコードコンポーネントのラベル。

- c. **[適用]** をクリックします。
作成した関連レコードコンポーネントが **[コンポーネント]** パネルと **[ツリービュー]** パネルに表示されます。
3. 関連レコードのコンポーネントに表示されるビジネスエンティティのフィルタを作成します。
 - a. 関連レコードのコンポーネントツリーで **filter** をクリックし、**[作成]** をクリックします。
フィルタのプロパティが **[プロパティ]** パネルに表示されます。
 - b. フィルタの名前を入力します。

- c. [タイプ] リストから以下のいずれかのフィルタタイプを選択します。

フィルタタイプ	説明
リレーション	リレーションタイプに基づいてフィルタリングする。
エンティティ	エンティティに基づいてフィルタリングする。

リレーションフィルタタイプを選択した場合、リレーション名が [値] リストに表示されます。エンティティフィルタタイプを選択した場合、エンティティ名が [値] リストに表示されます。

- d. [値] リストから項目を選択し、[適用] をクリックします。

関連レコードのコンポーネントでビジネスエンティティについて複数のフィルタを作成できます。

4. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. [パブリッシュ] をクリックします。

変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認し、[確認] をクリックします。

アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。

- c. 次のいずれかのボタンをクリックします。

- [パブリッシュ]。変更内容を MDM Hub に保存します。
- [いいえ]。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

作成してパブリッシュした関連レコードコンポーネントが [コンポーネント] パネルに表示されます。

関連レコードでのエンティティビューのレイアウトの設計

レイアウトデザイナーで Informatica Data Director のエンティティビューを設計できます。関連レコードでビジネスエンティティを表示するようにエンティティビューのレイアウトを設計します。

関連項目：

- [「エンティティビューのレイアウトの設計」 \(ページ 96\)](#)

第 8 章

タスク設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [タスク設定の概要, 53 ページ](#)
- [タスクのタイプの設定, 54 ページ](#)
- [タスクテンプレートの設定, 55 ページ](#)
- [ワークフロートリガの設定, 56 ページ](#)
- [わかりやすいタスクタイトル, 59 ページ](#)
- [デフォルトのタスク設定, 60 ページ](#)
- [タスク承認者の変更, 61 ページ](#)

タスク設定の概要

IDD でイベント実行時にタスクを初期化するロール、処理用のタスクを受け入れるロール、およびタスクがデフォルトで持つプロパティを定義できます。

プロビジョニングツールで、次のタスクプロパティを設定できます。

ワークフローを起動できるユーザーの定義

特定のイベント後に適切な ActiveVOS^(R)タスクワークフローが起動されるように、タスクトリガを設定します。

タスクを引き受けることができるユーザーの定義

タスクタイプの設定で、ActiveVOS タスクを引き受けることができる、つまり ActiveVOS タスクの割り当て対象となるユーザーロールを定義します。

デフォルトのタスクプロパティの定義

特定のプロパティを使用してタスクが作成されるように、タスクテンプレートを設定できます。例えば、トリガがワークフローを起動したときに、タスクに特定のタイトル、優先度、期限、およびタスクステータスが設定されるように指定できます。

タスクのタイプの設定

タスクタイプの設定では、タスクを引き受けることができる、つまりタスクの割り当て対象となるロールを設定します。タスクタイプを設定するには、ワークフローのユーザーアクティビティのタスクタイプを追加してから、ユーザーアクティビティの割り当てが可能なユーザーロールを設定します。

ユーザーがタスクを処理するには、ユーザーロールに適切な MDM Hub の特権が必要です。ロールへの特権の付与の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition セキュリティガイド*』を参照してください。

注: マージ解除タスクをトリガするロールを設定し、同じロールでそのマージ解除タスクを処理するように設定した場合、マージ解除タスクがトリガされるときエラーが発生し、タスクは処理されません。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックします。
2. **【タスク】** パネルで **【タスクのタイプ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルの **【名前】** フィールドに、ActiveVOS タスクの名前を入力します。

この名前は、.bpel ワークフローファイル内のユーザーアクティビティの前にあるセットアップスクリプトの、mdmavxsd:taskType 式で定義された mdmavxsd:name 値と同じである必要があります。

次の表に、デフォルトのビジネスエンティティワークフローのタスク名を示します。

タスク名 (mdmavxsd:name)	ユーザーアクティビティの説明	関連付けられたワークフロー
AVOSBeMerge	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージするか、アクションをキャンセルします。	マージ
AVOSBeUnMerge	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージ解除するか、アクションをキャンセルします。	マージ解除
AVOSBeNotification	承認された場合、レコードには昇格のフラグが立ち、データスチュワードは通知を受け取ります。	承認を伴う更新 ワンステップ承認 ツーステップ承認
AVOSBeReviewNoApprove	マネージャは更新を確認し、それを却下するか、最終確認のために送信します。	承認を伴う更新 ツーステップ承認
AVOSBeFinalReview	シニアマネージャは更新を確認し、それを却下または承認します。	承認を伴う更新 ワンステップ承認 ツーステップ承認
AVOSBeUpdate	データスチュワードは更新を確認し、更新をキャンセルするか、二段階承認をおして送信します。	承認を伴う更新 ワンステップ承認 ツーステップ承認

4. 必要に応じて、ラベルを入力します。
5. **【適用】** をクリックします。
6. ツリービューで、タスクタイプを展開し、**role** を選択して、**【作成】** をクリックします。
7. プロパティパネルで、**【名前】** リストから MDM Hub ロールを選択します。

このロールに属しているユーザーが割り当て可能です。このユーザーは、タスクタイプに関連付けられているユーザーアクティビティを実行できます。

8. **【適用】** をクリックします。
9. 他のロールについて、ステップ [6](#) からステップ [8](#) を繰り返します。

タスクテンプレートの設定

タスクテンプレートを設定するには、デフォルトのタスクプロパティを設定します。タスクを作成するときは、タスクテンプレートにより、タスクのタイトル、期限、優先度などのタスクプロパティが設定されます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックします。
2. **【タスク】** パネルで **【テンプレート】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルでテンプレートのプロパティを入力します。
 - a. **【名前】** フィールドにテンプレート名を入力します。
 - b. **【タイトル】** フィールドにタスクタイトルのタイトル形式を入力します。

タイトル例 1

タスクのタイトルを「<business entity name>: <source record display name><source record row ID> merges to <target record display name><target record row ID>」にします。

タイトルに次の値を入力します: Merge {taskRecord[1].label} into {taskRecord[0].label}。

ここで、

- taskRecord[N]は、TaskData.getTaskRecords() リスト内の (N+1) 番目のビジネスエンティティノードです。
- taskRecord[1]はソースレコードです。
- taskRecord[0]はターゲットレコードです。
- label は、ビジネスエンティティラベル形式設定のタスク形式の値です。

タイトル例 2

タスクのタイトルを「Review changes in <record label>」にします。

タイトルに次の値を入力します: Review changes in {taskRecord[0].label}。

ここで、

- taskRecord[0]はターゲットレコードです。
- label は、ビジネスエンティティラベル形式設定のタスク形式の値です。

- c. タスクのプロパティを選択します。
次の表に、可能なタスクの優先度を示します。

優先度	説明
HIGH	タスクに高い優先度があります。
NORMAL	タスクに中程度の優先度があります。デフォルトは NORMAL です。
LOW	タスクに低い優先度があります。

- d. **【期限】** フィールドに、タスクが作成された日付からタスクが期限を迎える日付までの日数を入力します。

次の表は、期限の構文を示しています。

パラメータ のタイプ	説明	値
sign	タスクの作成前と作成後のどちらの日付に期限が設定されるかを決定します。	+の場合は、タスクがトリガされる日付に時間が追加されて、期限が決まります。 -の場合は、タスクがトリガされる日付から時間が減算されて、期限が決まります。
number	期限を設定するときに、現在の日付を増やすまたは減らす際の単位数。	整数値。
unit	タスクがトリガされた日付から期限までの日数、週数、または月数。	d の場合は、指定された日数で期限が決まります。 w の場合は、指定された週数で期限が決まります。 m の場合は、指定された月数で期限が決まります。

- e. オプション: **【コメント】** フィールドに、タスクのコメントフィールドに表示するテキストを入力します。
- f. オプション: **【ステータス】** フィールドで、タスクのステータスを選択します。

次の表に、可能なタスクのステータスを示します。

ステータス	説明
OPEN	タスクのステータスは「オープン」です。デフォルトは OPEN です。
CLOSED	タスクのステータスは「終了」です。

4. **【適用】** をクリックします。

ワークフロートリガの設定

イベントの作成、更新、またはマージ後に起動されるタスクワークフローは、ワークフロートリガによって決定されます。

注: マージ解除タスクをトリガするルールを設定し、同じルールでそのマージ解除タスクを処理するように設定すると、エラーが発生し、タスクは処理されません。

トリガを設定する際は、次のような選択肢があります。

複数のイベントに対してトリガを設定できます。

例えば、新しいビジネスエンティティと更新されたビジネスエンティティがツーステップ承認の確認プロセスを経由するように、トリガを設定できます。新しいビジネスエンティティがワンステップ承認プロセ

スを経由するようにトリガを設定したり、更新されたビジネスエンティティが承認を伴う更新プロセスを経由するようにトリガを設定したりすることもできます。

特定のロールに対して特定のタスクトリガを設定できます。

例えば、エンティティがデータスチュワードによって更新される場合は、ツーステップ承認プロセスを経由するように、エンティティがシニアマネージャによって承認される場合は、ワンステップ承認プロセスを経由するように、ビジネスエンティティを設定できます。

特定のビジネスエンティティに対して特定のタスクトリガを設定できます。

例えば、新しい Person ビジネスエンティティがワンステップ承認プロセスを経由するように指定し、新しい Organization ビジネスエンティティがツーステップ承認プロセスを経由するように指定できます。

承認を要求しなくてもタスクが処理されるようにトリガを設定できます。

例えば、マネージャのロールを持つユーザーがマージタスクをトリガする場合、ワークフローをパススルーして承認を得なくてもレコードがマージされるように指定できます。

トリガプロパティの設定

作成、更新、またはマージイベントの発生後にタスクワークフローが起動されるように、トリガプロパティを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックします。
2. **【タスク】** パネルで **【トリガ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルでトリガ名を入力します。
リポジットリマネージャは、トリガ検証エラーの報告時にこの名前を参照します。
4. **【ワークフローの開始】** を有効にすると、イベントトリガにより、タスクワークフローが起動します。**【ワークフローの開始】** を有効にしない場合は、最初のレビュープロセスを省略して、直接データが変更されます。
5. 次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
タスクテンプレート	タスクの作成時に使用するタスクテンプレートの名前。
最初のタスクタイプ	ワークフロー内の最初のユーザーアクティビティ。

パラメータ	説明												
タスクの種類	MERGE、UMMERGE、または REVIEW を指定できます。												
process	<p>ActiveVOS サービスの名前。ActiveVOS PDD ファイルの [パートナーリンクサービス] プロパティに対応します。</p> <p>次の表に、デフォルトのビジネスエンティティワークフローのサービス名を示します。</p> <table> <tr> <th>ビジネスエンティティワークフロー</th><th>サービス</th></tr> <tr> <td>BeMergeWorkflow</td><td>BeMergeTask</td></tr> <tr> <td>BeUnmerge</td><td>BeUnmergeTask</td></tr> <tr> <td>BeOneStepApproval</td><td>BeOneStepApprovalTask</td></tr> <tr> <td>BeTwoStepApproval</td><td>BeTwoStepApprovalTask</td></tr> <tr> <td>BeUpdateWithApproval</td><td>BeUpdateWithApprovalTask</td></tr> </table>	ビジネスエンティティワークフロー	サービス	BeMergeWorkflow	BeMergeTask	BeUnmerge	BeUnmergeTask	BeOneStepApproval	BeOneStepApprovalTask	BeTwoStepApproval	BeTwoStepApprovalTask	BeUpdateWithApproval	BeUpdateWithApprovalTask
ビジネスエンティティワークフロー	サービス												
BeMergeWorkflow	BeMergeTask												
BeUnmerge	BeUnmergeTask												
BeOneStepApproval	BeOneStepApprovalTask												
BeTwoStepApproval	BeTwoStepApprovalTask												
BeUpdateWithApproval	BeUpdateWithApprovalTask												

6. **【適用】** をクリックします。

イベントの設定

Informatica Data Director 内のイベントをタスクトリガに関連付けます。1 つのトリガに複数のイベントを設定できます。

1. ツリービューで、トリガを展開します。
2. **【イベント】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. **【名前】** リストから、以下のいずれかのイベントを選択します。

イベント名	説明
CreateBE	ユーザーがレコードを作成すると発生します。
UpdateBE	ユーザーがレコードを更新すると発生します。
MatchedBE	MDM Hub が 2 つのレコードを一致として特定すると発生します。
MergeBE	ユーザーがレコードをマージすると発生します。
UnMergeBE	ユーザーがレコードをマージ解除すると発生します。

4. **【適用】** をクリックします。
5. 他のイベントについて、手順 [2](#) から手順 [4](#) を繰り返します。

トリガ用のロールの設定

イベントに適用されるトリガは、トリガするアクションを実行するユーザーのロールによって異なります。

1. ツリービューで、トリガを展開します。

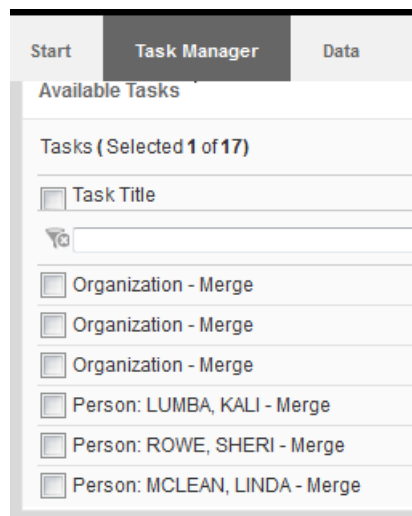
2. **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. **【名前】** リストから MDM Hub ロールを選択します。
4. **【適用】** をクリックします。
5. 他のロールについて、ステップ [2](#) からステップ [4](#) を繰り返します。

わかりやすいタスクタイトル

【モデリング】 ページで、各ビジネスエンティティに対してわかりやすいタスクタイトルを設定できます。

例えば、ビジネスエンティティタイプ、ビジネスエンティティレコードの表示名、およびタスクタイプを表示するタスクタイトルを設定できます。タスクにわかりやすいタスクタイトルが付いていれば、データスケジュールやビジネスマネージャは、タスクを区別しやすくなります。

次の図には、Organization ビジネスエンティティの一般的なタスクタイトルと、Person ビジネスエンティティのわかりやすいタスクタイトルが示されています。



わかりやすいタスクタイトルの設定

わかりやすいタスクタイトルを設定するには、[タスク形式] ビジネスエンティティ属性を編集します。

1. プロビジョニングツールで、**【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックします。
2. **【ビジネスエンティティ】** パネルで、ビジネスエンティティのルートノードをクリックします。
例えば、**【Person】** をクリックします。
3. ツリービューで、**【labelFormat】** を展開して、**【LabelFormatType】** をクリックします。
4. ノードプロパティパネルで、**【タスク形式】** フィールドに、わかりやすいタスクタイトルを入力します。
例えば、「{label}: {lastName}, {firstName}」と入力します。
5. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

デフォルトのタスク設定

プロビジョニングツールでタスク設定を作成しない場合は、デフォルトのタスク設定が生成されます。デフォルトのタスク設定は、ビジネスの要件に応じて変更してください。

デフォルトでは、次のタスク設定が生成されます。

タスクタイプの設定

次の表は、各タスクタイプを処理するために割り当てられるロールを示しています。

タスクタイプ	ロール
AVOSBeUnMerge	DataSteward
AVOSBeMerge	DataSteward
AVOSBeFinalReview	SrManager
AVOSBeNotification	DataSteward
AVOSBeUpdate	DataSteward
AVOSBeReviewNoApprove	Manager

トリガ設定

次の表は、デフォルトトリガを示しています。

トリガ	詳細
デフォルトの承認	イベント: CreateBE および UpdateBE ロール: すべてのロールに適用
デフォルトのマージ	イベント: MergeBE ロール: すべてのロールに適用
デフォルトのマージ解除	イベント: UnMergeBE ロール: すべてのロールに適用
一致	ワークフロープロセスの開始: BeMergeTask タスクの種類: MERGE タスクテンプレート: MergeTaskGenerator 最初のタスクタイプ: AVOSBeMerge イベント: UnMergeBE ロール: System

タスクテンプレートの設定

次の表は、デフォルトタスクテンプレートの設定を示しています。

タスクタイプ	詳細
DefaultApproval	タイトル: {taskRecord[0].label}の変更の確認 優先度: Normal 期限: +7d ステータス: Open
MergeTaskGenerator	タイトル: {taskRecord[0].label} - マージ 優先度: Normal 期限: +7d コメント: Hub で自動生成されたマージタスク。 ステータス: Open

タスク承認者の変更

タスク承認者のロールを変更した場合、この変更は、新しいタスクでのみ有効になります。既存のタスクを処理するには、以前の承認者のデフォルトトリガを設定します。

例えば、DataSteward ロールをマージ解除タスクの承認者として以前に設定していたとします。DataSteward ロールではなく、マネージャロールに属するユーザーがマージタスクを承認するようにタスク設定を変更します。

1. プロビジョニングツールで、**【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** を選択します。
2. **【タスク】** パネルで **【トリガ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで、**【名前】** フィールドに「DefaultApproval」と入力して、**【適用】** をクリックします。
4. マージ解除イベントを作成します。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで、**DefaultApproval** ノードを展開します。
 - b. **【イベント】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - c. **【プロパティ】** パネルで、**【UnMergeBE】** を **【名前】** フィールドから選択して、**【適用】** をクリックします。
5. マネージャロールをトリガに関連付けます。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで、**DefaultApproval** ノードを展開します。
 - b. **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - c. **【プロパティ】** パネルで、**【マネージャ】** を **【名前】** フィールドから選択して、**【適用】** をクリックします。
6. オプション: トリガを適用するビジネスエンティティを指定します。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで、**【ロール】** ノードを展開します。
 - b. **【マネージャ】** ロールを展開します。
 - c. **【businessEntity】** を選択して、**【作成】** をクリックします。
 - d. **【プロパティ】** パネルで、トリガを適用するビジネスエンティティを **【名前】** フィールドから選択します。

- e. トリガを適用するビジネスエンティティが他にある場合は、そのビジネスエンティティで手順 [4](#) から [5](#) を繰り返します。
7. **【パブリッシュ】** をクリックします。

第 9 章

Data as a Service の統合

この章では、以下の項目について説明します。

- [概要, 63 ページ](#)
- [DaaS サービス用の WSDL ファイル, 63 ページ](#)
- [トランスフォーメーション, 64 ページ](#)
- [SOAP サービス, 65 ページ](#)
- [DaaS プロバイダ, 65 ページ](#)
- [DaaS プロバイダコンポーネント, 65 ページ](#)
- [DaaS プロバイダの統合, 66 ページ](#)

概要

サードパーティデータプロバイダからのデータを使用して、ビジネスエンティティデータを充実および拡張できます。Data as a Service (DaaS) プロバイダと統合し、信頼性があり、正確かつ完全なデータにアクセスできます。DaaS プロバイダに、収入、親子または企業リンケージ、詳細な企業プロファイル、D-U-N-S 番号などの関連するビジネスエンティティ情報を要求できます。DaaS プロバイダからのデータを使用して、ビジネスエンティティを作成および更新できます。

DaaS プロバイダへのアクセスを有効化または無効化できます。ユーザーロールおよびユーザーが実行する操作に基づいて、DaaS サービスへのアクセスを設定できます。例えば、ユーザーがレコードを作成したときのみ、サービスを有効にできます。DaaS データを使用してエンリッチ化するビジネスエンティティを指定できます。DaaS プロバイダからのデータを入力する、ビジネスエンティティフィールドを選択できます。DaaS プロバイダからのデータを要求し、検索結果を比較して、ビジネスエンティティレコードに変換およびマージするエンティティを選択できます。

DaaS サービスと統合するには、最初に DaaS プロバイダに登録する必要があります。プロビジョニングツールで、必要な設定および DaaS コンポーネントを作成し、そのコンポーネントを Informatica Data Director エンティティビューレイアウトに追加する必要があります。ビジネスエンティティのエンティティビューを開くと、[DaaS] パネルに DaaS プロバイダが表示されます。

DaaS サービス用の WSDL ファイル

DaaS サービスは、クライアントアプリケーションへの要求およびクライアントアプリケーションからの応答に対応する Simple Object Access Protocol (SOAP) プロトコルをサポートする Web サービスです。DaaS サ

ービスを使用するには、サービス用の Web サービス記述言語（WSDL）ファイルをアップロードする必要があります。WSDL ファイルには Web サービスが記述されます。

WSDL ファイルには、次の情報が含まれています。

- 利用可能な Web サービスの XML 記述。
- Web サービスの場所。
- サービスが使用する方法。
- サービスが取得するパラメータ。
- SOAP 要求および応答の形式。

トランスフォーメーション

データのエンリッチ化のために DaaS プロバイダと統合する場合、自分が持っているビジネスエンティティ情報と、DaaS プロバイダから提供される情報を照合する必要があります。ビジネスエンティティに関する最低限必要な情報とともに、要求を DaaS Web サービスに送信します。その情報に基づいて、DaaS プロバイダは、ビジネスエンティティデータのエンリッチ化に使用できる応答を送信します。

要求と応答に、SOAP プロトコルを使用します。DaaS サービスへの要求と DaaS サービスからの応答は、XML 構造になっています。ビジネスエンティティサービスは、ビジネスエンティティデータを入力として受け取り、それを XML ドキュメント内のフィールドにマッピングします。また、この情報を持つ DaaS Web サービスを呼び出し、XML ドキュメントの形式で応答を受け取ります。このサービスは、XML ドキュメントをビジネスエンティティフィールドに変換し、情報をビジネスエンティティデータとして保存します。トランスフォーメーションを設定し、ビジネスエンティティフィールドから XML 要求フィールドへのマッピング、および XML 応答フィールドからビジネスエンティティフィールドへのマッピングを行う必要があります。

プロビジョニングツールを使用して、DaaS に対して次のトランスフォーメーションを設定します。

- **ビジネスエンティティから XML。** 要求を DaaS サービスに送信するために必要なマッピング。
- **XML からビジネスエンティティ。** DaaS サービスからの応答を読み取り、変換するために必要なマッピング。

ビジネスエンティティから XML へのトランスフォーメーション

DaaS サービスに要求を送信するときは、XML 形式で送信する必要があります。ビジネスエンティティのデータを XML ドキュメントに変換する必要があります。DaaS サービスが要求で使用する XML フィールドに、ビジネスエンティティのフィールドをマッピングする必要があります。プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティから XML 形式へのトランスフォーメーションを設定します。

注: トランスフォーメーションを設定する前に、使用を予定している DaaS サービスの WSDL を必ずアップロードしてください。WSDL ファイルには、サービスが要求するパラメータが指定されています。

XML からビジネスエンティティへのトランスフォーメーション

DaaS サービスは、XML 形式で応答を送信します。XML 応答を解析する必要があります。XML ドキュメントのフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングする必要があります。プロビジョニングツールを使用して、XML ドキュメントからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定します。

注: トランスフォーメーションを設定する前に、使用を予定している DaaS サービスの WSDL を必ずアップロードしてください。

Duns & Bradstreet (D&B) が提供する企業リンケージサービスでは、要求した組織の親エンティティと関連エンティティが返されます。リンケージ情報をインポートする場合は、リンケージサービスを使用できるカスタムアプリケーションを作成する必要があります。XML ドキュメントからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定し、それをサービスとして公開する必要があります。XML からビジネスエンティティへのトランスフォーメーションをサービスとして公開するときは、DaaS インポートおよび DaaS 更新ビジネスエンティティサービスが作成されます。DaaS インポートおよび DaaS 更新サービスは、ビジネスエンティティデータのインポートや、ビジネスエンティティデータに対する変更の更新のために使用します。

リンケージサービスの使用法の詳細については、『*MDM Multidomain ビジネスエンティティサービスガイド*』の「企業リンケージサービスのサポート」の章を参照してください。

SOAP サービス

データエンリッチ化のための DaaS サービスは、SOAP プロトコルをサポートする一連の Web サービスです。DaaS サービスと統合し、SOAP 呼び出しで情報にアクセスして、ビジネスエンティティデータをエンリッチ化する必要があります。

外部 SOAP サービスを登録する必要があります。サービスが呼び出しに対して認証情報を要求する場合は、SOAP サービスを設定するときに、SOAP ヘッダーに認証情報を指定します。

DaaS プロバイダ

DaaS プロバイダとの通信は、SOAP 要求および応答で行われます。ビジネスエンティティに関する最小限の必須情報で DaaS プロバイダに要求を送信します。DaaS プロバイダは、ビジネスエンティティビューを展開してビジネスエンティティデータをエンリッチ化するために使用できる情報で応答します。

プロビジョニングツールの拡張として DaaS プロバイダを設定する必要があります。DaaS プロバイダ設定では、Web サービスの呼び出しを、ビジネスエンティティから XML 形式へのトランスフォーメーションおよび XML 形式からビジネスエンティティへのトランスフォーメーションと組み合わせます。必須フィールドやサービスのタイプ（READ や SEARCH など）など、メタデータを指定する必要があります。例えば、組織の名前を指定すると、DaaS サービスはその名前を検索し、一致する名前を持つエンティティのリストを返します。D-U-N-S 番号などの一意の値を指定すると、DaaS サービスは直接一致を実行し、組織の詳細を返します。複数の DaaS プロバイダを設定できます。

注: すべての DaaS プロバイダには、1 つ以上の必須フィールドが必要です。必須フィールドは、DaaS プロバイダの設定時に指定します。

DaaS サービスとの通信は、エンティティビューのレイアウトに追加する DaaS コンポーネントを通じて行われます。

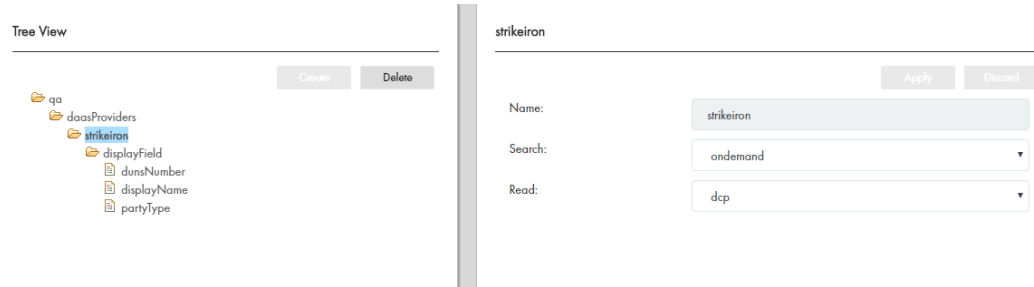
DaaS プロバイダコンポーネント

DaaS プロバイダコンポーネントは、エンティティビューのレイアウトに追加できるコンポーネントです。コンポーネントには、エンティティビューで開くビジネスエンティティ用に設定する DaaS プロバイダが一覧表示されます。

DaaS プロバイダコンポーネントを使用して、DaaS プロバイダにデータを要求できます。レコードを検索し、結果を比較し、ビジネスエンティティレコードに変換してマージするエンティティを選択できます。DaaS プ

ロバイダコンポーネントは、プロビジョニングツールのコンポーネントエディタで作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。レイアウトデザイナーを使用して、エンティティビューのレイアウトを作成し、そのレイアウトにコンポーネントを追加します。

次の図は、DaaS プロバイダコンポーネントの設定例を示しています。



DaaS プロバイダの統合

DaaS プロバイダを統合するには、必要な設定と DaaS プロバイダコンポーネントを作成します。エンティティビューのレイアウトを設計して、DaaS プロバイダコンポーネントを追加します。

DaaS プロバイダを MDM Hub に統合するには、次のタスクを実行します。

1. DaaS サービスの WSDL をアップロードします。
2. ビジネスエンティティを XML 形式に変換するには、ビジネスエンティティフィールドを SOAP サービス要求の入力にマッピングします。
3. SOAP サービスからの XML 応答を変換して、XML 要素をビジネスエンティティのフィールドにマッピングします。
4. SOAP サービスを登録します。
5. WSDL、SOAP サービス、トランスフォーメーションを 1 つにまとめて DaaS プロバイダを設定し、その設定を MDM Hub にパブリッシュします。
6. DaaS プロバイダの UI コンポーネントを作成します。
7. エンティティのレイアウトを設計して、DaaS プロバイダコンポーネントを追加した後、MDM Hub に設定をパブリッシュします。

WSDL ファイルのアップロード

使用する DaaS Web サービス用の WSDL ファイルをアップロードします。WSDL ファイルは、操作に加えて、要求および応答の形式とデータ型を記述します。

1. プロビジョニングツールにログインし、[ORS] を選択します。
2. **[ビジネスエンティティ]** > **[拡張]** をクリックします。
[拡張] ページが表示されます。
3. **[拡張]** リストから **[WSDL]** を選択し、**[作成]** をクリックします。

4. **【プロパティ】** ペインで次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	WSDL ファイルの名前。
URL	Web サービスの WSDL ファイルの URL。例: http://ws.strikeiron.com/OnDemandEntityID1?wsdl

5. **【適用】** をクリックします。

WSDL の詳細がツリービューに表示されます。


次の図は、DaaS サービスの WSDL ファイルを示しています。



ビジネスエンティティの XML 形式への変換

Web サービスに要求を送信するには、XML 形式の入力が必要です。サービス要求のマッピングを定義する必要があります。ビジネスエンティティを XML 形式に変換するには、ビジネスエンティティフィールドをサービス要求の入力フィールドにマッピングします。

1. プロビジョニングツールにログインし、**【ORS】** を選択します。
2. **【ビジネスエンティティ】** > **【トランスフォーメーション】** をクリックします。
【トランスフォーメーション】 ページが表示されます。
3. **【トランスフォーメーション】** リストから **【ビジネスエンティティから XML】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。
URI	SOAP 操作が定義される名前空間を特定します。
ビジネスエンティティ	サービスを要求するビジネスエンティティ。
タイプ	名前空間でのタイプ。
ターゲット	要求の要素。 【参照】 ボタン () をクリックして、ルート要素を選択します。

5. **【適用】** をクリックします。
6. ルートノードのトランスフォーメーションを設定するには、**【ツリービュー】** パネルで **【トランスフォーメーション】** を選択して、**【作成】** をクリックします。

7. [プロパティ] パネルで、次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。
ステータスの出力	クレンジング出力パラメータの名前。クレンジングトランスフォーメーションで使用されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
ステータス - 成功	正規表現。クレンジング操作が正常に完了すると、正規表現に一致する値がクレンジング出力パラメータに返されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
タイプ	ビジネスエンティティフィールドから XML フィールドにデータをマッピングするトランスフォーメーションのタイプ。直接トランスフォーメーションでは、データは変更されません。

8. ビジネスエンティティフィールドを要求内のフィールドにマッピングします。

- 【入力フィールド】** カラムの **【参照】** ボタンをクリックします。
- マッピングするビジネスエンティティフィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。
- 【出力フィールド】** カラムの **【参照】** ボタンをクリックします。
- 要求内のフィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。

注: フィールドを指定した場合、その値は、サービスデータオブジェクト (SDO)、ビジネスエンティティ、または XML データから取得されます。一部の出力フィールドについては定数値を指定できますが、その値を入力フィールドにマッピングする必要はありません。例えば、サービスが返すことができる候補の最大数または国コードを指定できますが、そのような値は入力フィールドにマッピングしません。**【値】** フィールドに値を指定して、出力フィールドにマッピングします。

- 追加情報をマッピングするには、**【追加】** アイコンをクリックし、手順 a から d を実行します。
- 【適用】** をクリックします。

次の図は、ルートエンティティのフィールドのマッピング例を示しています。

root

Apply

Discard

Name:

root

Status output:

Status success:

Type:

direct


Input Fields	Value	Output Fields	
<div></div> ...	10000	maxReturnedCandi... <div></div>	✕
<div></div> ...	us	entityIdRequest.Cou... <div></div>	✕
displayName... <div></div>		entityIdRequest.Org... <div></div>	✕

XML データのビジネスエンティティへの変換

DaaS サービスを使用するには、サービスが返す応答に対してマッピングを定義する必要があります。応答のフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。ビジネスエンティティに格納するサービスの XML 出力のフィールドを指定します。

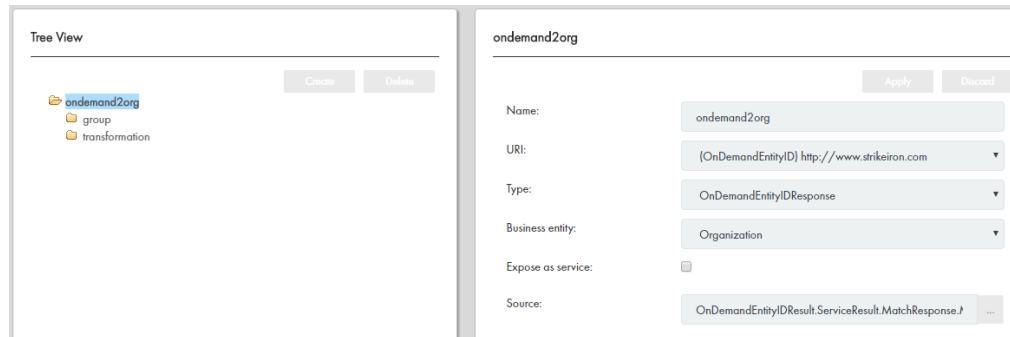
1. プロビジョニングツールにログインし、[ORS] を選択します。
2. **[ビジネスエンティティ]** > **[トランスフォーメーション]** をクリックします。
[トランスフォーメーション] ページが表示されます。
3. **[トランスフォーメーション]** リストから **[XML からビジネスエンティティ]** を選択して、**[作成]** をクリックします。
4. **[プロパティ]** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。
URI	SOAP 操作が定義される名前空間を特定します。
タイプ	名前空間でのタイプ。
ビジネスエンティティ	変換するビジネスエンティティ。

プロパティ	説明
サービスとして公開	true に設定した場合、トランスフォーメーションは、インポートおよび更新という 2 つのビジネスエンティティサービスとして公開されます。これらのサービスは、XML データを受け入れてビジネスエンティティデータに変換し、ビジネスエンティティレコードとして保存します。
ソース	応答オブジェクトの要素。【参照】 ボタン () をクリックし、要素を検索します。

5. 【適用】 をクリックします。

次の図は、XML データからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの例を示しています。



6. ルートノードのトランスフォーメーションを設定するには、[ツリービュー] パネルで【トランスフォーメーション】を選択して、【作成】をクリックします。
7. [プロパティ] パネルで、次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。例えば、ルートのトランスフォーメーション。
ステータスの出力	クレンジング出力パラメータの名前。クレンジングトランスフォーメーションで使用されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
ステータス - 成功	正規表現。クレンジング操作が正常に完了すると、正規表現に一致する値がクレンジング出力パラメータに返されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
タイプ	ビジネスエンティティフィールドから XML にデータを直接マッピングするトランスフォーメーションのタイプ。直接トランスフォーメーションでは、データは変更されません。

8. サービス応答の XML 要素をビジネスエンティティフィールドにマッピングします。
- 【入力フィールド】 カラムの【参照】 ボタンをクリックします。
 - フィールドを選択して、【選択】 をクリックします。
 - 【出力フィールド】 カラムの【参照】 ボタンをクリックします。
 - マッピング先のビジネスエンティティフィールドを選択して、【選択】 をクリックします。
 - 追加情報をマッピングするには、【追加】 アイコンをクリックし、手順 a から d を実行します。
 - 【適用】 をクリックします。

次の図は、ルートノードのフィールドのマッピング例を示しています。

The screenshot shows a configuration interface. On the left is a 'Tree View' showing a hierarchy: 'ondemand2.org' (folder) contains 'group' (folder), which contains 'address' (folder), which contains 'group' (folder), which contains 'transformation' (folder), which contains 'addr' (file). The 'transformation' folder also contains a 'transformation' file, and the 'addr' file contains a 'root' file. On the right is the configuration panel for the 'root' node. It has 'Apply' and 'Discard' buttons. Fields include 'Name' (set to 'root'), 'Status output' (empty), 'Status success' (empty), and 'Type' (set to 'direct'). Below is a mapping table with 'Input Fields', 'Value', and 'Output Fields' columns.

Input Fields	Value	Output Fields
DUNSNumber		dunsNumber
OrganizationPrim		displayName
PrimaryAddress.Pr		Addresses[1].Add
PrimaryAddress.St		Addresses[1].Add
PrimaryAddress.Te		Addresses[1].Add
TelephoneNumbe		TelephoneNumbe
PrimaryAddress.Pi		Addresses[1].Add
OrganizationIdent		partyType

9. ビジネスエンティティの子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。
 - a. **group** フォルダを選択し、**作成** をクリックします。
 - b. **プロパティ** パネルで、group フォルダで表示するノードの名前を入力します。
 - c. **ソース** フィールドでフィールドを選択し、**ターゲット** フィールドでビジネスエンティティ内の子ノードを選択します。それぞれの子ノードについて繰り返します。
 - d. **適用** をクリックします。
 - e. **子ノード** を展開して、**トランスフォーメーション** を選択し、**作成** をクリックします。
 - f. **プロパティ** パネルで、トランスフォーメーションの名前を入力します。
 - g. **タイプ** リストで、**直接** を選択します。
 - h. **入力フィールド** カラムの **参照** ボタンをクリックします。
 - i. フィールドを選択して、**選択** をクリックします。
 - j. **出力フィールド** カラムの **参照** ボタンをクリックします。
 - k. マッピング先のビジネスエンティティフィールドを選択して、**選択** をクリックします。

注: サービスデータオブジェクト (SDO) の XML パスは、field 属性に直接指定できます。/が含まれている場合、そのフィールドは、SDO の XPath です。クレンジングトランスフォーメーションを使用してから、ビジネスエンティティに XML データを設定する場合は、子ノードのマッピングで親 XML 要素が必要になることがあります。ただし、子ノードのトランスフォーメーションで、親 XML 要素は選択できません。必要な親 XML 要素のパスは、手動で **フィールド名** に入力する必要があります。親要素にアクセスするには、サービスデータオブジェクト (SDO) の XPath 式を使用します。ここで/は、ルート要素を表します。例えば、住所子ノードのトランスフォーメーションを設定するときに、dunsNumber 要素と city 要素を連結する場合があります。dunsNumber 要素は親要素であるため、選択できません。dunsNumber 要素にアクセスするには、/OrderCompanyProfileResult[1]/ServiceResult[1]/OrderProductResponseDetail[1]/InquiryDetail[1]/DUNSNumber[1] というパスを使用してください。

- l. 他のフィールドについて、手順 h から k を繰り返します。

- m. **【適用】** をクリックします。
10. 子ノードごとに、手順 9 を繰り返します。
- 次の図は、子ノードのフィールドのトランスフォーメーションとマッピングの例を示しています。

The screenshot displays the configuration for a node named 'addr'. On the left, a 'Tree View' shows a hierarchical structure starting from 'root', with 'transformation' containing 'addr'. On the right, the configuration panel for 'addr' includes fields for 'Name' (set to 'addr'), 'Status output', 'Status success', and 'Type' (set to 'direct'). Below these is a table for field mapping:

Input Fields	Value	Output Fields
LineText		Address.addressLine

SOAP サービスの登録

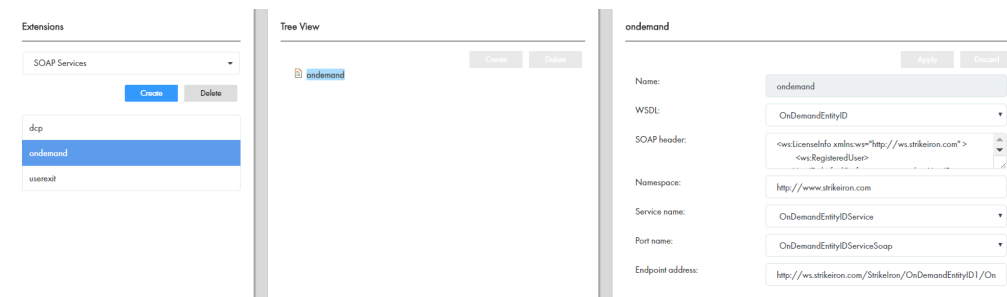
DaaS サービスに対して SOAP 呼び出しを実行するには、最初に、必要な SOAP サービスを登録する必要があります。WSDL ファイルをアップロードした後、WSDL ファイルで記述する SOAP サービスおよび操作を登録します。

1. プロビジョニングツールにログインし、**【ORS】** を選択します。
2. **【ビジネスエンティティ】** > **【拡張】** をクリックします。
【拡張】 ページが表示されます。
3. **【拡張】** リストから **【SOAP サービス】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	SOAP サービスの名前。
WSDL	SOAP サービスの WSDL ファイルの URL。
SOAP ヘッダー	認証など、追加のアプリケーション固有の情報。例えば、サービスで操作を呼び出すたびに、SOAP ヘッダー内に有効なユーザー名とパスワードが必要な場合があります。
名前空間	SOAP サービスに関連付けられた名前空間。
サービス名	サービスの名前。
ポート名	クライアントアプリケーションが SOAP サービスにアクセスできるポート名。
エンドポイントアドレス	クライアントアプリケーションが SOAP サービスにアクセスできる URL またはアドレス。

5. **【適用】** をクリックします。

次の図は、SOAP サービスの設定例を示しています。



DaaS プロバイダの設定

ビジネスエンティティデータをエンリッチ化するために DaaS プロバイダに対してサービス呼び出しを行うには、プロビジョニングツールで DaaS プロバイダを設定します。

1. プロビジョニングツールにログインし、**【ORS】** を選択します。
2. **【ビジネスエンティティ】** > **【拡張】** をクリックします。
【拡張】 ページが表示されます。
3. **【拡張】** リストから **【DaaS プロバイダ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	DaaS プロバイダの名前。
タイプ	プロバイダが使用するサービスのタイプで、 【読み取り】 または 【検索】 のいずれかです。
ビジネスエンティティから XML	ビジネスエンティティから、使用する XML トランスフォーメーション。
XML からビジネスエンティティ	XML から、使用するビジネスエンティティトランスフォーメーション。
SOAP サービス	使用する SOAP サービス。
SOAP 操作	実行する SOAP 操作。
ビジネスエンティティ	DaaS プロバイダのデータを要求するビジネスエンティティ。
スコアフィールド	検索結果の各行の追加情報。受信 XML データのフィールドをこのフィールドにマップします。
ラベル形式	検索結果に表示される形式。DaaS には適用されません。
システム名	営業支援システム（SFA: Sales Force Automation）などのソースシステム名。

5. **【適用】** をクリックします。
6. **【ツリービュー】** パネルで、**requiredField** のフォルダを展開し、**【作成】** をクリックします。

注: 各 DaaS プロバイダには、1 つ以上の必須フィールドが必要です。1 つ以上の必須フィールドを指定しない場合は、Informatica Data Director のエンティティビューの DaaS プロバイダコンポーネントで、DaaS プロバイダが無効になります。

7. 【プロパティ】パネルで、必須フィールドを選択します。

サービス呼び出しを行うと、DaaS プロバイダは、必須フィールドの値に基づいて検索を実行します。

8. 【適用】をクリックします。

次の図は、DaaS プロバイダの設定例を示しています。

The screenshot displays the configuration interface for a DaaS provider. On the left, a 'Tree View' shows a hierarchy: 'ondemand' (folder icon) containing 'requiredField' (document icon) and 'displayName' (document icon). Below the tree are 'Create' and 'Delete' buttons. The main panel, titled 'ondemand', contains various configuration fields with 'Apply' and 'Discard' buttons at the top right. The fields are: 'Name' (text input with 'ondemand'), 'Type' (dropdown menu with 'SEARCH'), 'Business entity to XML' (dropdown menu with 'org2ondemand'), 'XML to Business entity' (dropdown menu with 'ondemand2org'), 'SOAP service' (dropdown menu with 'ondemand'), 'SOAP operation' (dropdown menu with 'OnDemandEntityID'), 'Business entity' (dropdown menu with 'Organization'), 'Score field' (empty text input), 'Label format' (text input with '{dunsNumber}-{displayName}' and a dropdown arrow), and 'System name' (dropdown menu with 'SFA').

DaaS プロバイダコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで DaaS プロバイダコンポーネントを作成します。DaaS プロバイダのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. プロビジョニングツールにログインし、[ORS] を選択します。
2. 【UI 設定】 > 【コンポーネントエディタ】 をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
3. 【コンポーネント】 リストから 【DaaS プロバイダ】 を選択し、【作成】 をクリックします。
4. 【プロパティ】 パネルにコンポーネントの名前を入力し、【適用】 をクリックします。
作成した DaaS プロバイダのコンポーネントが 【ツリービュー】 パネルに表示されます。
5. DaaS プロバイダのコンポーネントツリーで **daasProviders** をクリックし、【作成】 をクリックします。
DaaS プロバイダのプロパティが 【プロパティ】 パネルに表示されます。
6. 【名前】 フィールドに DaaS プロバイダの名前を入力します。
7. 【検索】 リストから、検索操作に設定した DaaS プロバイダを選択します。
8. 【読み取り】 リストから、読み取り操作に設定した DaaS プロバイダを選択します。
9. 【適用】 をクリックします。

次の図は、DaaS プロバイダの設定例を示しています。



DaaS でのエンティティビューのレイアウトの設計

DaaS プロバイダでビジネスエンティティを表示するようにエンティティビューのレイアウトを設計します。レイアウトデザイナーでエンティティビューを設計して、DaaS プロバイダコンポーネントを追加できます。エンティティビューで開いているビジネスエンティティのデータを DaaS プロバイダに要求できます。

関連項目：

- [「エンティティビューのレイアウトの設計」 \(ページ 96\)](#)

トランスフォーメーションの削除

トランスフォーメーションを削除できます。コンポーネントまたは拡張のベースとなるトランスフォーメーションを削除すると、そのコンポーネントおよび拡張が削除されます。

WSDL ファイル、SOAP サービス、および DaaS プロバイダの削除

WSDL ファイル、SOAP サービス、DaaS プロバイダなどの拡張を削除できます。

コンポーネントまたは拡張のベースとなる拡張を削除すると、そのコンポーネントおよび拡張が削除されます。

第 10 章

外部呼び出しの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [概要, 76 ページ](#)
- [外部呼び出しの設定, 77 ページ](#)

概要

ビジネスエンティティデータをクレンジング、分析、および変換するための Web サービスは、外部プロバイダによって提供されます。外部 Web サービスを使用して、カスタム検証を実行できます。例えば、ビジネスエンティティの追加時に住所フィールドが空かどうかを検査できます。また、外部 Web サービスを使用して、ビジネスエンティティデータの変換時にカスタムロジックを適用できます。例えば、2つのビジネスエンティティレコードをマージするときに、住所はマージ可能にし、電話番号はマージ不可にすることができます。

ビジネスエンティティ実行ロジックの特定のステップで外部 Web サービスを呼び出すように設定できます。外部サービス呼び出すビジネスエンティティとイベントを設定する必要があります。外部呼び出しは、ビジネスエンティティサービスの拡張として設定する必要があります。要求タイプおよび応答タイプを取得するには、外部 Web サービス用の XML スキーマ定義 (XSD) を使用します。外部 Web サービスの操作では、入力要素および出力要素として、要求タイプおよび応答タイプを使用する必要があります。要求は、実装したロジックに基づいて外部サービスに送信され、各サービスでビジネスエンティティデータの分析や変換が実行されます。

XSD ファイルは、`<infamdm installation directory>\hub\ server\lib\mdm-spi.jar` にあります。

外部のサービス、操作、メソッドや、サービスメソッドが交換するデータ型を理解するには、リソースキットに含まれているサンプルの WSDL ファイルを使用してください。外部 Web サービスのサンプルの `custom-logic-service.wsdl` ファイルは、`<infamdm installation directory>\hub\resourcekit\samples\BESEExternalCall\source\resources\webapp\WEB-INF\wsdl\` にあります。

外部 Web サービスは、ご自分で開発してデプロイする必要があります。`<infamdm installation directory>\hub\resourcekit\samples\BESEExternalCall\` フォルダ内にある Ant のビルドファイル、`build.xml` を使用して、`bes-external-call.ear` ファイルを作成します。アプリケーションサーバーに EAR ファイルをデプロイした後、プロビジョニングツールを使用して、Web サービスの呼び出しを設定します。

外部呼び出しの設定

ビジネスエンティティデータのカスタムロジックおよびカスタム検証用の外部サービス呼び出しを設定します。

外部呼び出しを設定するには、次のタスクを実行します。

1. XML スキーマ定義 (XSD) を使用して、外部呼び出しの要求タイプと応答タイプを取得します。この要求タイプおよび応答タイプを入力要素および出力要素として使用して、外部 Web サービスを操作します。
mdm-spi.jar ファイル内の bes-external-call.xsd ファイルを参照してください。
2. 外部 Web サービスを開発してデプロイします。
3. Web サービスの WSDL ファイルをアップロードします。
4. SOAP サービスを登録します。
5. 外部呼び出しを設定し、WSDL、SOAP サービス、および SOAP 操作をバインドします。設定を MDM Hub にパブリッシュします。

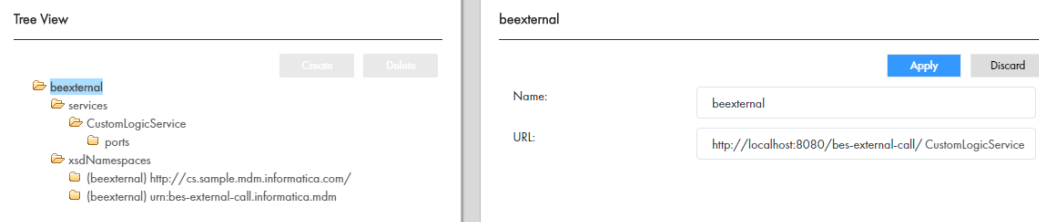
Web サービスの WSDL ファイルと SOAP 呼び出しの詳細については、「Data as a Service の統合」の章を参照してください。

外部 Web サービスが使用可能なビジネスエンティティサービスの手順の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

WSDL ファイルのアップロード

使用する Web サービスの WSDL ファイルをアップロードするには、プロビジョニングツールを使用します。

次の図は、プロビジョニングツールでアップロードされた WSDL ファイルを示しています。



関連項目：

- [「WSDL ファイルのアップロード」 \(ページ 66\)](#)

SOAP サービスの登録

カスタム検証およびカスタムロジック用の Web サービスにアクセスして、ビジネスエンティティデータを処理するには、外部プロバイダに対して SOAP 呼び出しを行う必要があります。

SOAP サービスを登録するには、プロビジョニングツールを使用します。

次の図は、SOAP サービスの設定例を示しています。

Tree View

userexit

Create Delete

userexit

Apply Discard

Name: userexit

WSDL: beexternal

SOAP header:

Namespace: http://cs.sample.mdm.informatica.com/

Service name: CustomLogicService

Port name: CustomLogicServicePort

Endpoint address: http://localhost:8080/bes-external-call/customLogicService

関連項目：

- [「SOAP サービスの登録」 \(ページ 72\)](#)

外部呼び出しの設定

外部呼び出しは、ビジネスエンティティサービスの拡張機能です。WSDL、SOAP サービス、および SOAP 操作をバインドし、外部呼び出しを設定するには、プロビジョニングツールを使用します。

1. プロビジョニングツールにログインし、[ORS] を選択します。
2. [ビジネスエンティティ] > [拡張] をクリックします。
[拡張] ページが表示されます。
3. [拡張] リストから [外部呼び出し] を選択し、[作成] をクリックします。
4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	外部呼び出しの名前。
SOAP サービス	使用する SOAP サービス。
SOAP 操作	実行する SOAP 操作。

5. [適用] をクリックします。
6. 変更をパブリッシュします。

次の図は、外部呼び出しの設定例を示しています。

Extensions

External Calls

Create Delete

validateperson

Tree View

validateperson

Create Delete

businessEntity

Account

servicePhase

WriteCO.BeforeValidate

validateperson

Apply Discard

Name: validateperson

SOAP service: custom

SOAP operation: validate

第 11 章

Informatica Data Director のユーザーインターフェースの設計

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Data Director のユーザーインターフェースの設計の概要, 79 ページ](#)
- [ユーザーインターフェースの設計例, 80 ページ](#)
- [ユーザーインターフェース設計の前提条件, 80 ページ](#)
- [Informatica Data Director アプリケーション, 80 ページ](#)
- [ユーザーインターフェースのレイアウト, 81 ページ](#)
- [標準ユーザーインターフェースコンポーネント, 82 ページ](#)
- [カスタムユーザーインターフェースコンポーネント, 86 ページ](#)
- [レイアウトの設計および更新方法, 90 ページ](#)

Informatica Data Director のユーザーインターフェースの設計の概要

Informatica Data Director のユーザーインターフェースを設計して、ビジネスエンティティを追加、編集、管理できます。ユーザーインターフェースを設計するには、アプリケーションおよびユーザーインターフェースコンポーネントを作成して、これらのコンポーネントを組み立てます。

Informatica Data Director のユーザーインターフェースを設計するときは、スタートページとエンティティビューのレイアウトを設計します。ユーザーインターフェースの要件が変わった場合は、作成したレイアウトを更新できます。

プロビジョニングツールで、Informatica Data Director のユーザーインターフェースレイアウトを設計します。ユーザーインターフェースを設計するには、プロビジョニングツールのアプリケーションエディタ、コンポーネントエディタ、およびレイアウトデザイナーを使用します。ユーザーインターフェースには、標準コンポーネントとカスタムコンポーネントを追加できます。必要なカスタムコンポーネントは、コンポーネントエディタで作成します。カスタムコンポーネントを作成したら、レイアウトデザイナーを使用してレイアウトテンプレートを選択し、そのレイアウトで使用するコンポーネントをドラッグして編成します。

ユーザーインターフェースの設計例

企業内のアカウントマネージャである場合、顧客のプロファイルを追跡する必要があります。顧客プロフィールの管理に使用する、Informatica Data Director のユーザーインターフェースのレイアウトを視覚化します。

レイアウトを設計する前に、必要なユーザーインターフェースコンポーネントを作成します。レイアウトを設計するには、レイアウトデザイナーで目的に合ったテンプレートを選択し、必要なコンポーネントをドラッグして、レイアウトをパブリッシュします。アプリケーションにログインすると、作成したエンティティビューのレイアウトがビューリストに表示され、顧客のプロファイルを管理できるようになっています。

ユーザーインターフェース設計の前提条件

Informatica Data Director のユーザーインターフェースを設計する前に、次の前提条件となるタスクを実行します。

1. MDM Hub をインストールして設定します。
2. ユーザーインターフェースレイアウトへのアクセスに必要なユーザーロールを作成します。MDM Hub コンソールでユーザーロールを作成します。
3. アプリケーションに関連付けるソースシステムを作成します。MDM Hub コンソールでソースシステムを作成します。
4. ビジネスエンティティモデルを定義します。
5. ユーザーインターフェースを使用してビジネスエンティティのリレーションを管理する場合は、管理するリレーションのタイプを作成します。
6. ビジネスエンティティのビューを表示するユーザーインターフェースを設計する場合は、ビジネスエンティティビューを作成します。

Informatica Data Director アプリケーション

Informatica Data Director アプリケーションは、Informatica Data Director の主要な設定およびデプロイメントユニットです。アプリケーションは、ビジネスユーザーが Informatica Data Director を起動してログインするときに表示されます。アプリケーションを追加および変更するには、プロビジョニングツールのアプリケーションエディタを使用します。

アプリケーションは、MDM Hub 環境のデータベースごとに作成できます。各アプリケーションをデータ変更の追跡に使用するソースシステムに関連付けます。ソースシステムを作成するには、Hub コンソールのシステムと信頼ツールを使用します。使用するソースシステムを最も高い信頼レベルを持つように設定します。信頼レベルを最も高くすることで、アプリケーションユーザーが行った変更が他のどの値より優先され、マスタレコードに確実に反映されるようにします。

アプリケーションを追加、変更、または削除したときに、Informatica Data Director でその変更内容を表示するには、MDM Hub に変更内容をパブリッシュします。

注: 10.2 より前のバージョンからアップグレードした場合、プロビジョニングツールでアプリケーションを作成するときは、アプリケーションに指定する名前が、既存の Informatica Data Director アプリケーションの名前と同じであることを確認してください。

ユーザーインタフェースのレイアウト

Informatica Data Director のユーザーインタフェースは、スタートページ、エンティティビュー、およびエンティティビューに関連付けられたビューから構成されています。レイアウトデザイナーで、スタートページとエンティティビューのレイアウトを設計できます。

Informatica Data Director アプリケーションにアクセスすると、スタートページが表示されます。スタートページには概要とレポートを表示できます。一般的なスタートページのレイアウトは、1つのパネルで構成されています。

エンティティビューにビジネスエンティティの詳細を表示できます。一般的なエンティティビューレイアウトは、2つのパネルで構成されています。エンティティビューには、相互参照ビュー、履歴ビュー、階層ビュー、一致マージ比較ビューなどの関連ビューがあります。関連ビューは、Informatica Data Director のユーザーインタフェースに表示される標準ビューです。エンティティビューに関連するビューを設定する必要はありません。関連ビューを使用して、ビジネスエンティティに関する情報を管理します。

スタートページとエンティティビューの複数のレイアウトを設計できます。複数のユーザーロールに適用されるレイアウトを作成するか、一意のユーザーロールに適用されるレイアウトを作成するかを選択できます。ユーザーが Informatica Data Director にログインすると、そのユーザーロールに適用されるレイアウトがアプリケーションに表示されます。

ビジネスエンティティの作成、ビジネスエンティティの表示などの特定のタスクが実行されるときに表示されるレイアウトを定義できます。例えば、ビジネスエンティティの作成時に表示されるエンティティビューのレイアウトを作成できます。ビジネスエンティティを表示および編集するときに表示される、別のエンティティビューのレイアウトを作成することもできます。

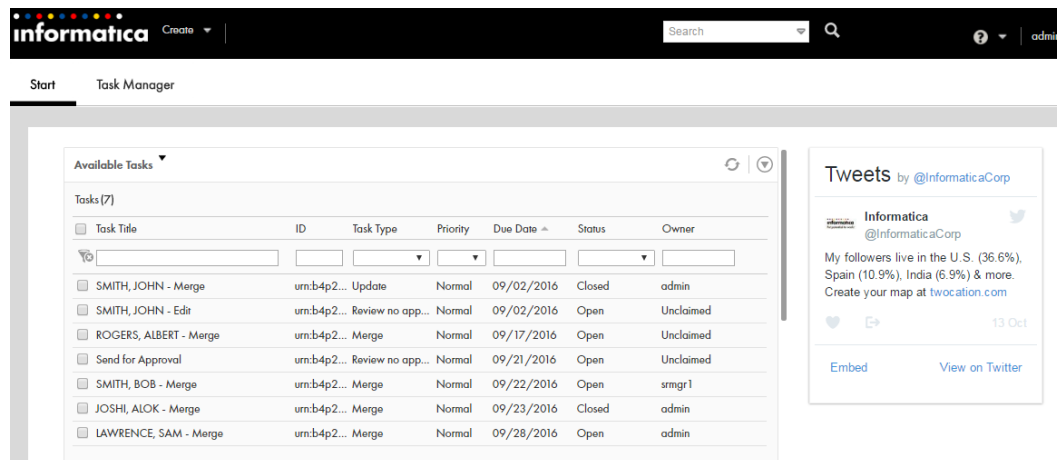
注: 10.2 より前のバージョンからアップグレードした場合は、プロビジョニングツールにレイアウトが正しく表示されないことがあります。Informatica Data Director アプリケーションにレイアウトが正しく表示されることを確認してください。必要な場合は、プロビジョニングツールでレイアウトを編集できます。

スタートページ

スタートページは、Informatica Data Director にログインすると表示されます。タスクインボックスと、マップやレポートなどの外部リソースが含まれるように、スタートページを設計できます。

スタートページを設計するときは、必要なコンポーネントを表示できるように、必ず適切なテンプレートを選択してください。例えばスタートページにデータレポートを表示する場合、テンプレートにはレポートを表示できる大きさのパネルまたはセクションが含まれている必要があります。

次の図は、一般的なスタートページを示しています。

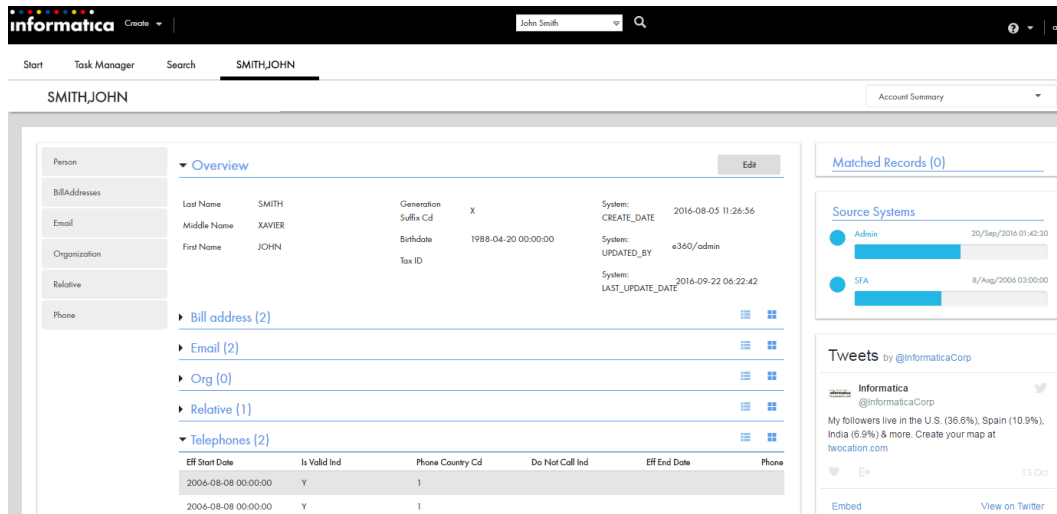


エンティティビュー

エンティティビューには、ビジネスエンティティの詳細が表示されます。ビジネスエンティティを作成、編集、表示するエンティティビューを設計できます。一致レコード、関連タスクなどのビジネスエンティティに関連する情報を表示するコンポーネントを追加できます。

エンティティビューを設計するときは、必要なコンポーネントを表示できるように、必ず適切なテンプレートを選択してください。例えば、エンティティビューにビジネスエンティティを表示する場合、テンプレートにはビジネスエンティティの詳細を表示できる大きさのパネルまたはセクションが含まれている必要があります。

次の図は、ビジネスエンティティの詳細と関連情報が含まれる一般的なエンティティビューを示しています。



注: エンティティビューのレイアウトを設計しない場合、ビジネスエンティティは、関連するデータコンポーネントと外部リソースがないデフォルトのレイアウトに表示されます。

標準ユーザーインタフェースコンポーネント

Informatica Data Director のユーザーインタフェースレイアウトに標準コンポーネントを追加できます。標準コンポーネントは、レイアウトデザイナーで設定を表示する必要はありません。

次の表は、レイアウトデザイナーに表示される標準コンポーネントを示します。

標準コンポーネント	説明
ビジネスエンティティ	ビジネスエンティティを表示します。
ダッシュボードレポートビュー	Jaspersoft レポートを表示します。Informatica Data Director のサブジェクト領域に対して設定されている Jaspersoft レポートがすでにあるお客様は、このコンポーネントを使用します。
一致レコード	ビジネスエンティティと一致するレコードを表示します。
関連レコード（ビューモード）	ビジネスエンティティに関連したレコードを表示します。

標準コンポーネント	説明
関連タスク	ビジネスエンティティに関連するすべてのタスクを表示します。BE-AVOS アダプタで作成されたタスクのみが表示されます。
ソースシステム	ビジネスエンティティデータに関与するソースシステムを表示します。
タスクインボックス	タスク通知を含むタスクインボックスを表示します。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティコンポーネントとは、エンティティビューのレイアウトに追加できる標準的なコンポーネントです。このコンポーネントにはビジネスエンティティが表示されます。ビジネスエンティティのすべてのフィールドを使用することも、必要なフィールドを含めることもできます。エンティティビューの各レイアウトには、コンポーネントを1回のみ追加するようにしてください。

ビジネスエンティティコンポーネントは、[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルが作成された後に、レイアウトデザイナーに表示されます。レイアウトを設計するときは、電話番号、電子メール ID、住所などの必要な情報を表示するように、ビジネスエンティティコンポーネントを設定できます。大量の情報を含む複数の子エンティティを表示する場合は、ナビゲーションを容易にするために、ビジネスエンティティメニューを有効にします。

次の図は、垂直メニューを含むビジネスエンティティコンポーネントの例を示しています。

Person

Telephones

Email

Bill address

▼ Overview

Edit

Last Name:

SMITH

Birthdate:

1988-04-20 00:00:00

Display Name:

JOHN XAVIER SMITH

Tax ID:

924234265

Middle Name:

XAVIER

First Name:

JOHN

▼ Telephones (2)

≡ ≡

Eff Start Date	Phone Type	Is Valid Ind	Phone Country Cd	Phone Number	Phone Ext Number
2006-08-08 00:00:00	FACSIMILE	Y	1	(941)756-1291	
2006-08-08 00:00:00	BUSINESS	Y	1	(856)742-1865	

▼ Email (2)

≡ ≡

Eff Start Date	Is Valid Ind	Eff End Date	Electronic Address Type	Electronic Address	Opt In Ind
2016-04-26 00:00:00		2016-06-24 00:00:00		jxsmith88@example.com	
2006-08-08 00:00:00	Y	2999-12-31 23:59:00	EMAIL	james_smith@nowhere.com	

► Bill address (5)

≡ ≡

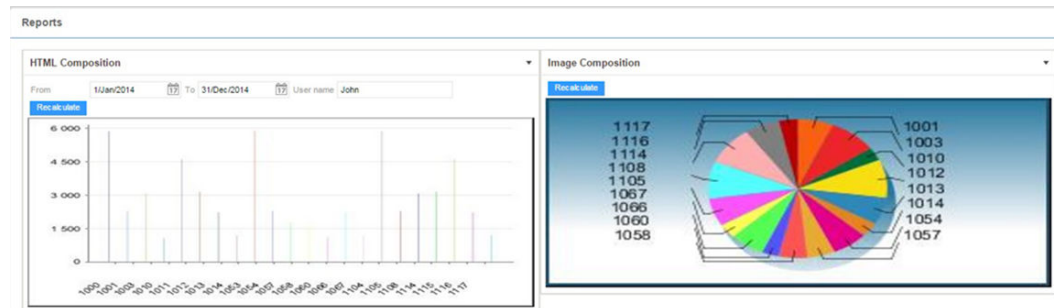
ダッシュボードレポートビュー

ダッシュボードレポートビューは、スタートページレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。ビジネスインテリジェンスツールの Jaspersoft を使用してレポートの作成と分析を行う場合は、このコンポーネントをレイアウトに追加します。このコンポーネントに、Jaspersoft で生成されたレポートが表示されます。

IDD のサブジェクト領域に対して設定されている Jaspersoft レポートがすでにあるお客様は、ダッシュボードレポートビューを使用します。コンポーネントは、Informatica Data Director 構成ファイル内で設定されているすべてのレポートのインラインフレームとして機能します。

注: ダッシュボードレポートビューをスタートページに表示する場合は、テンプレート 1 を使用してスタートページを設計します。

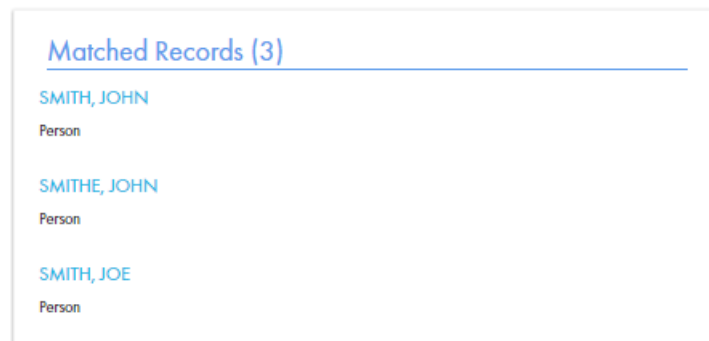
次の図は、ダッシュボードレポートビューの例を示しています。



一致レコード

一致レコードコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。このコンポーネントは、エンティティビューで開かれるビジネスエンティティの一致候補となるビジネスエンティティの一覧を表示します。コンポーネント内の各一致ビジネスエンティティは、エンティティビューで開くことができるリンクになっています。

次の図は、エンティティビューに表示される、John E. Smith の一致レコードコンポーネント例です。





関連レコード（ビューモード）

ビューモードの関連レコードコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。コンポーネントは、エンティティビューで開かれるビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティの一覧を表示します。コンポーネント内の各関連ビジネスエンティティは、エンティティビューで開くことができるリンクになっています。

エンティティビューで関連レコードを表示するには、エンティティビューのベースにするビジネスエンティティモデルに対して、必ずリレーションが定義されている必要があります。[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルを作成し、ビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。

次の図は、個人ビジネスエンティティに関連するビジネスエンティティの一覧がエンティティビューに表示されている、関連記録コンポーネントの例を示しています。

Related Records (2)	
	Account #: 23 Account
	SMITH Household Household

関連タスク

関連タスクコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。このコンポーネントは、エンティティビューで開かれるビジネスエンティティに関連するすべてのタスクの一覧を表示します。コンポーネント内の各タスクは、タスクの詳細を表示するために開くことができるリンクになっています。





次の図は、エンティティビューに表示される関連タスクコンポーネント例を示しています。

Related Tasks (3)		
	Task Title	Status
▼	SMITH, JOHN - Merge	Open
▼	SMITHE, JOE - Unmerge	Open
▼	SMITH, JOHN - Edit	Closed

ソースシステム

ソースシステムコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。コンポーネントは、ビジネスエンティティデータを提供したソースシステムを水平棒グラフで表示します。ソースシステムは、相互参照レコードの最大コントリビュータから最小コントリビュータの順に表示されます。

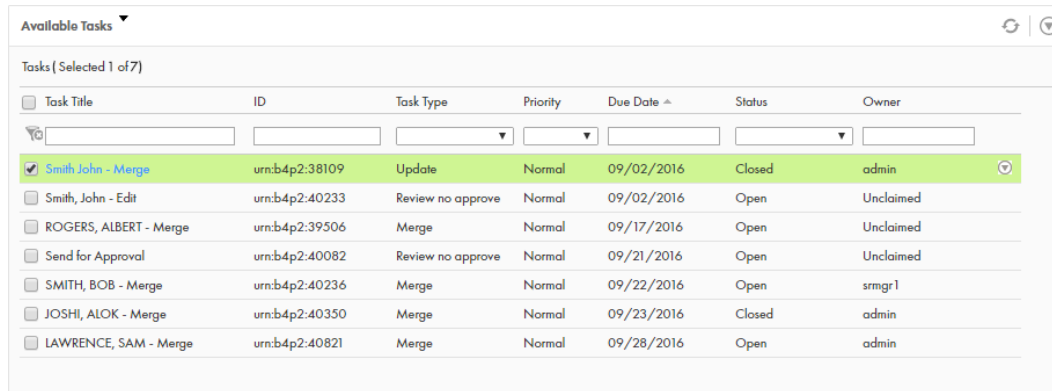
次の図は、エンティティビューに表示されるソースシステムコンポーネントの例を示しています。

Source Systems	
 Admin	20/Sep/2016 01:42:30
	
 SFA	8/Aug/2006 03:00:00
	

タスクインボックス

タスクインボックスコンポーネントは、スタートページレイアウトに追加できる標準コンポーネントです。コンポーネントは、確認プロセスが生成するタスク通知を表示します。タスクインボックスを使用して、タスクの整理、引き受け、解決を行うことができます。

次の図は、スタートページのタスクインボックスの例を示しています。



Task Title	ID	Task Type	Priority	Due Date	Status	Owner
<input checked="" type="checkbox"/> Smith John - Merge	urn:b4p2:38109	Update	Normal	09/02/2016	Closed	admin
<input type="checkbox"/> Smith, John - Edit	urn:b4p2:40233	Review no approve	Normal	09/02/2016	Open	Unclaimed
<input type="checkbox"/> ROGERS, ALBERT - Merge	urn:b4p2:39506	Merge	Normal	09/17/2016	Open	Unclaimed
<input type="checkbox"/> Send for Approval	urn:b4p2:40082	Review no approve	Normal	09/21/2016	Open	Unclaimed
<input type="checkbox"/> SMITH, BOB - Merge	urn:b4p2:40236	Merge	Normal	09/22/2016	Open	srmgr1
<input type="checkbox"/> JOSHI, ALOK - Merge	urn:b4p2:40350	Merge	Normal	09/23/2016	Closed	admin
<input type="checkbox"/> LAWRENCE, SAM - Merge	urn:b4p2:40821	Merge	Normal	09/28/2016	Open	admin

カスタムユーザーインタフェースコンポーネント

外部リソースなどのカスタムコンポーネントを Informatica Data Director のユーザーインタフェースのレイアウトに追加できます。必要なカスタムコンポーネントはコンポーネントエディタで設定できます。カスタムコンポーネントを設定したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

以下の表に、レイアウトデザイナーで表示できるカスタムコンポーネントを示します。

カスタムコンポーネント	説明
外部リソース	Twitter フィードや Web ページなどの外部リソースを表示します。
関連レコード（編集モード）	ビジネスエンティティに関連したレコードを表示します。このコンポーネントを使用して、ビジネスエンティティのリレーションを追加、編集、または削除できます。
類似するレコード	ユーザーが作成前に類似するビジネスエンティティを検索できるコンポーネントを表示します。作成したビジネスエンティティに類似するビジネスエンティティを表示します。

重要: 設定したコンポーネント名が、どのビジネスエンティティ名とも同じでないことを確認します。例えば、ご使用の環境に Person ビジネスエンティティがある場合は、どのカスタムコンポーネントにも Person という名前を付けないでください。

外部リソース

外部リソースコンポーネントは、スタートページレイアウトとエンティティビューレイアウトに追加できるカスタムコンポーネントです。このコンポーネントは、外部 Web ページと RSS フィードを表示できます。

ビジネスエンティティに関連する Bing 検索ページや Twitter フィードなどの外部リソースを表示できます。ビジネスインテリジェンスツールの Jaspersoft を使用してレポートを作成および分析する場合は、外部リソースとして、それらのレポートを表示できます。

レイアウトに外部リソースコンポーネントを追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。外部リソースコンポーネントを作成するときは、外部 Web ページを埋め込むインラインフレームを使用するか、HTML コードと Javascript を使用します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

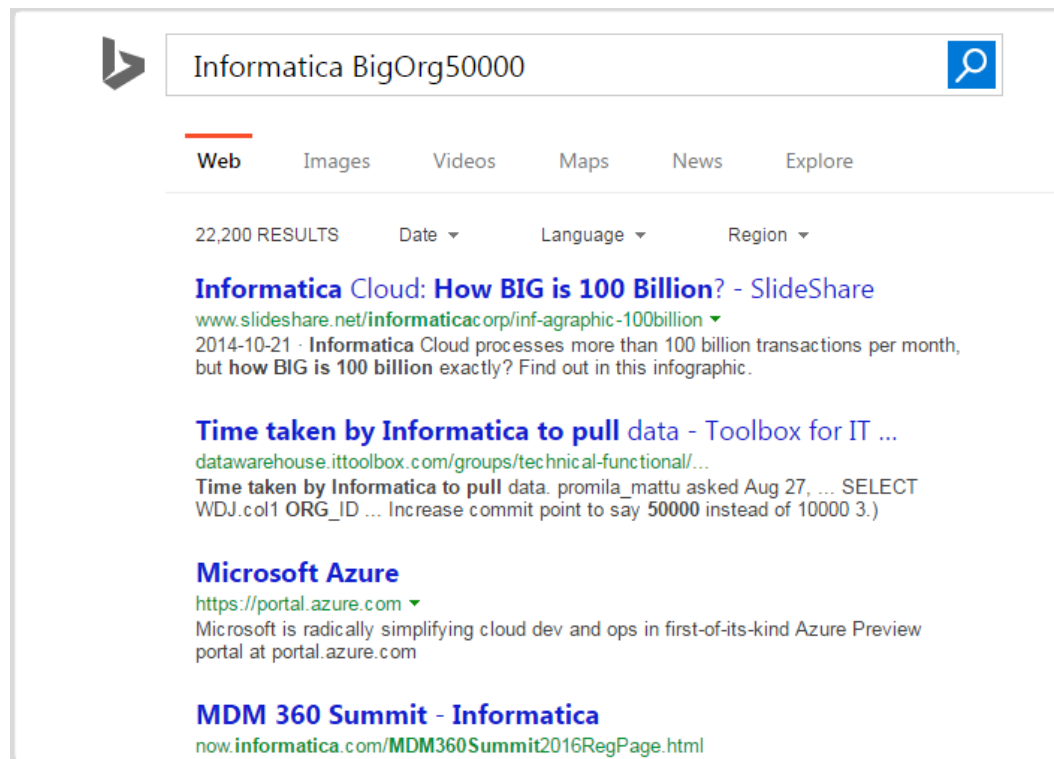
Web ページの埋め込み例

Bing 検索ページを表示してビジネスエンティティの表示名が読み込まれるように、インラインフレームを設定するとします。

次のサンプルコードは、Bing 検索ページをエンティティビューに表示させるために必要な、インラインフレーム設定を示しています。

```
<style>
  #box {
    height: 500px;
    overflow: auto;
  }
</style>
<div id="box">
  <iframe src="http://www.bing.com/search?q=Informatica+{{displayName}}"
    allowtransparency="true" frameborder="0" scrolling="no"
    style="border:none;overflow:auto;height:100%;width:100%" >
  </iframe>
</div>
```

次の図は、エンティティビューに表示される Bing 検索ページを示しています。



RSS フィードの設定例

ビジネスエンティティに属する Twitter フィードを表示するとします。HTML および Javascript を使用して、Twitter フィードがどのように表示されるかを設定します。

次のサンプルコードは、Twitter フィードをエンティティビューに表示させるために必要な HTML と Javascript コードを示しています。

```
<div>
  <a target='_blank' class="twitter-timeline" href="https://twitter.com/{{taxID}}"
    data-screen-name="{{taxID}}" data-tweet-limit="5" data-show-replies="false"
    data-widget-id="47318108875222208">Tweets by {{displayName}}
  </a>
  <script>!function(d,s,id){
    var widgetElem = d.getElementById(id);
    if (widgetElem) {
      var widgetParent = widgetElem.parentNode;
      widgetParent.removeChild(widgetElem);
    }
    var js,
    fjs=d.getElementsByTagName(s)[0],
    p=/^http/.test(d.location)?'http':'https';
    js=d.createElement(s);
    js.id=id;
    js.src=p+"://platform.twitter.com/widgets.js";
    fjs.parentNode.insertBefore(js,fjs);
  }(document,"script","twitter-wjs");
  </script>
</div>
```


次の図は、エンティティビューに表示される Twitter フィードを示しています。



例の Twitter API コードの詳細については、埋め込みタイムラインに関する Twitter のドキュメントを参照してください。

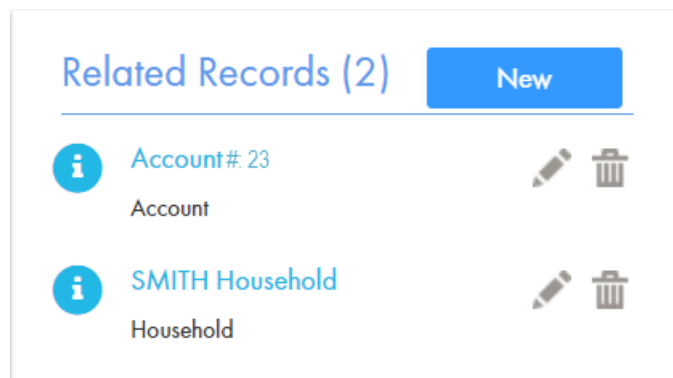
関連レコード（編集モード）

編集モードの関連レコードコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できるカスタムコンポーネントです。コンポーネントは、エンティティビューで開かれるビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティの一覧を表示します。コンポーネント内の各関連ビジネスエンティティは、エンティティビューで開くことができるリンクになっています。

編集モードの関連レコードコンポーネントを使用して、関連レコードコンポーネントに表示されるビジネスエンティティのリレーションを追加、編集、および削除できます。関連レコードコンポーネントをエンティティビューレイアウトに追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

エンティティビューで関連レコードを表示するには、エンティティビューのベースにするビジネスエンティティモデルに対して、必ずリレーションが定義されている必要があります。[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルを作成し、ビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。

次の図は、個人ビジネスエンティティに関連するビジネスエンティティの一覧がエンティティビューに表示されている、関連レコードコンポーネントの例を示しています。



類似するレコード

類似するレコードコンポーネントは、エンティティビューレイアウトに追加できるカスタムコンポーネントです。エンティティビューレイアウトを使用して、ビジネスエンティティが作成されます。コンポーネントは、作成したビジネスエンティティに類似するビジネスエンティティの一覧をエンティティビューに表示します。

コンポーネント内の各ビジネスエンティティはリンクになっており、情報アイコンが表示されています。各ビジネスエンティティは、エンティティビューでプレビューしたり開いたりできます。作成したビジネスエン

ティティが重複していないことを確認するには、コンポーネントに表示される類似するビジネスエンティティを確認します。

類似するビジネスエンティティをエンティティビューで表示するには、MDM Hub 環境でスマート検索が設定されている必要があります。類似するレコードコンポーネントをエンティティビューレイアウトに追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。類似するレコードの検索基準が、検索可能として設定されたビジネスエンティティモデルのフィールド名になっていることを確認します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。スマート検索の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

類似するレコードのコンポーネントの設定例

類似するレコードコンポーネントを設定し、類似するビジネスエンティティの検索のベースを名および姓のフィールドにするとします。

名および姓のフィールドを含む次のコードを使用して、類似するレコードコンポーネントを設定します。

```
<config>
  <searchableFields>
    <field name="firstName"/>
    <field name="lastName"/>
  </searchableFields>
  <label existsFormat="{1} {2} {3}">
    <column columnUid="firstName"/>
    <column columnUid="middleName"/>
    <column columnUid="lastName"/>
  </label>
</config>
```

注: この例では、名および姓のフィールドは、ビジネスエンティティモデルの検索可能フィールドとして設定されています。ビジネスエンティティモデルは、[モデリング] ページで設定してください。

次の図は、類似するレコードコンポーネントを示しており、作成されたビジネスエンティティ、John Smith に類似する 3 つのビジネスエンティティが含まれています。



レイアウトの設計および更新方法

Informatica Data Director のスタートページおよびエンティティビューのレイアウトを設計および更新します。

レイアウトを設計および更新するには、次のタスクを実行します。

1. 既存の Informatica Data Director アプリケーションがない場合は、アプリケーションを作成します。
2. ビジネスエンティティ関連データを表示するためにカスタムコンポーネントが必要な場合は、カスタムコンポーネントを作成します。
3. レイアウトを設計し、コンポーネントをそのレイアウトに追加して、変更をパブリッシュします。

- 要件を満たすために、さらにレイアウトを変更する必要がある場合は、レイアウトを更新して、その変更をパブリッシュできます。

Informatica Data Director アプリケーションの作成

設計する Informatica Data Director のユーザーインターフェースのレイアウトは、Informatica Data Director アプリケーションに関連付ける必要があります。Informatica Data Director アプリケーションを作成するには、アプリケーションエディタを使用します。

- プロビジョニングツールの **【データベース】** リストから、アプリケーションに関連付けるデータベースを選択します。
- 【UI 設定】** > **【アプリケーションエディタ】** をクリックします。
アプリケーションエディタが表示されます。
- 【作成】** をクリックします。
- 【プロパティ】** パネルで以下のアプリケーションのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	[アプリケーション] パネルに表示されるアプリケーションの名前。
表示名	Informatica Data Director に表示されるアプリケーションの名前。
ソースシステム	アプリケーションに関連付けるソースシステム。
セッションタイムアウト (分)	アイドル状態の Informatica Data Director セッションがタイムアウトするまでに待機する分単位の時間。

- 必要に応じて、アプリケーション内のビジネスエンティティを設定するには、**【ツリービュー】** パネルで **[beConfiguration]** ノードをクリックします。
 - アプリケーション内のビジネスエンティティの設定を作成するには、**【作成】** をクリックします。
 - 【プロパティ】** パネルで、設定するビジネスエンティティを選択し、次のビジネスエンティティのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
表示可能	ユーザーが Entity 360 フレームワークを使用してレコードを作成するときに、ビジネスエンティティを 【作成】 メニューから表示可能にするかどうかを指定します。

- 【適用】** をクリックします。
作成したアプリケーションが **【ツリービュー】** パネルと **【アプリケーション】** パネルに表示されます。
- 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - 【パブリッシュ】** をクリックします。
変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。
 - 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。
アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。

- c. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
 - **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

関連レコードのコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで関連レコードのコンポーネントを作成します。関連レコードのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. プロビジョニングツールで、**【UI 設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. 関連レコードのコンポーネントを作成します。
 - a. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【関連レコード】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. **【プロパティ】** パネルで、以下の関連レコードのコンポーネントのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	【コンポーネント】 パネルに表示される関連レコードのコンポーネントの名前。
ラベル	レイアウトデザイナーのワークスペースでコンポーネントのコンポーネントリストに表示される関連レコードコンポーネントのラベル。

- c. **【適用】** をクリックします。
作成した関連レコードコンポーネントが **【コンポーネント】** パネルと **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
3. 関連レコードのコンポーネントに表示されるビジネスエンティティのフィルタを作成します。
 - a. 関連レコードのコンポーネントツリーで **filter** をクリックし、**【作成】** をクリックします。
フィルタのプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
 - b. フィルタの名前を入力します。
 - c. **【タイプ】** リストから以下のいずれかのフィルタタイプを選択します。

フィルタタイプ	説明
リレーション	リレーションタイプに基づいてフィルタリングする。
エンティティ	エンティティに基づいてフィルタリングする。

リレーションフィルタタイプを選択した場合、リレーション名が **【値】** リストに表示されます。エンティティフィルタタイプを選択した場合、エンティティ名が **【値】** リストに表示されます。

- d. **【値】** リストから項目を選択し、**【適用】** をクリックします。
関連レコードのコンポーネントでビジネスエンティティについて複数のフィルタを作成できます。

4. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。

アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。
 - c. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
 - **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

作成してパブリッシュした関連レコードコンポーネントが **【コンポーネント】** パネルに表示されます。

類似するレコードのコンポーネントの作成

類似するレコードのコンポーネントをコンポーネントエディタで作成します。類似するレコードのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. プロビジョニングツールで、**【UI 設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。

コンポーネントエディタが表示されます。
2. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【類似するレコード】** を選択し、**【作成】** をクリックします。

【プロパティ】 パネルにプロパティフィールドが表示されます。
3. 類似するレコードコンポーネントの名前を入力します。
4. **【XML】** フィールドに、類似するレコードを検索するフィールドのリストが含まれる以下の XML 設定を入力します。

```
<config>
  <searchableFields>
    <field name="<field name 1>" />
    <field name="<field name 2>" />
    ...
    <field name="<field name n>" />
  </searchableFields>
  <label existsFormat="{1} {2} {3}">
    <column columnUid="<field name 1>" />
    <column columnUid="<field name 2>" />
    <column columnUid="<field name 3>" />
  </label>
</config>
```

ここで、<field name>は類似するレコードの検索の基準となるフィールドの名前です。ビジネスエンティティモデル内の検索可能に設定されているフィールド名に基づいて、類似するレコードを検索できます。また検索フィールド値の表示形式を指定する必要があります。

5. **【適用】** をクリックします。

作成した類似するレコードのコンポーネントが **【コンポーネント】** パネルと **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。

アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。

- c. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
 - **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

外部リソースのコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで外部リソースのコンポーネントを作成します。外部リソースのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. プロビジョニングツールで、**【UI 設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【外部リソース】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【プロパティ】 パネルにプロパティフィールドが表示されます。
3. 以下のコンポーネントのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	[コンポーネント] パネルに表示される外部リソースのコンポーネントの名前。
コード	外部リソースを表示するためのコード。外部 Web ページを埋め込むインラインフレームを使用したり、HTML コードと Javascript を使用したりできます。 注: コンポーネントを作成する外部リソースで高さが事前定義されていない場合、コードでコンポーネントの高さを指定します。

4. **【適用】** をクリックします。
作成した外部リソースのコンポーネントが **【コンポーネント】** パネルと **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
5. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。
アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。
 - c. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
 - **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

スタートページのレイアウトの設計

レイアウトデザイナーで Informatica Data Director のスタートページを設計できます。例えば、タスク通知およびデータレポートを表示するようにスタートページのレイアウトを設計します。

1. プロビジョニングツールで、**【UI 設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】** > **【スタートページ】** をクリックします。

【レイアウトプロパティの定義】 ページが表示されます。

3. 設計するレイアウトを定義して特定するために、以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュしたら、ラベルがレイアウトデザイナーのレイアウトリストに表示されます。
一意のラベル	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプション名	Informatica Data Director のビューリストに表示するオプションのラベル。

4. 【次へ】 をクリックします。

【目的の定義】 ページが表示されます。

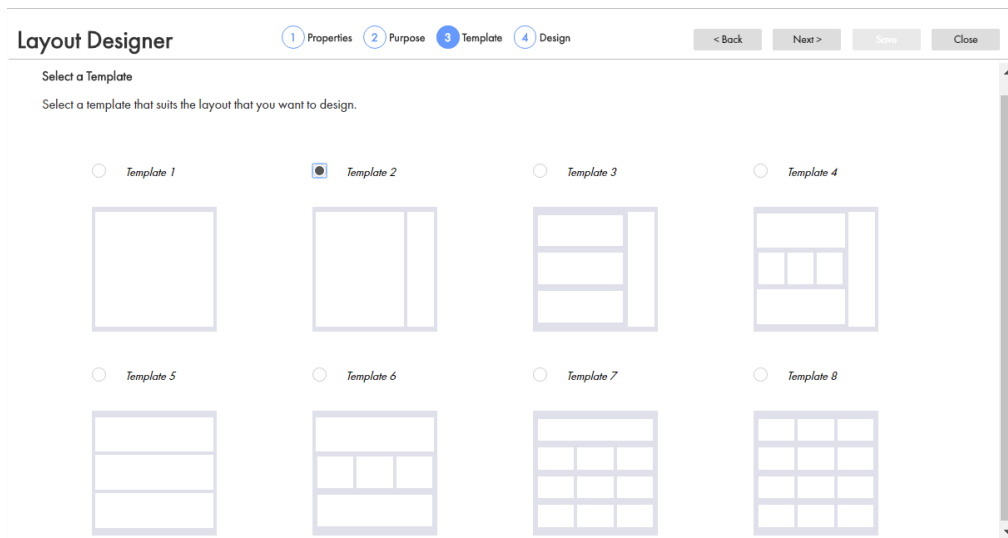
5. レイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択します。

【目的の定義】 ページに表示されるユーザーロールは、MDM Hub 環境で設定します。

6. 【次へ】 をクリックします。

【テンプレートを選択】 ページが表示されます。

次の図は、【テンプレートを選択】 ページを示しています。



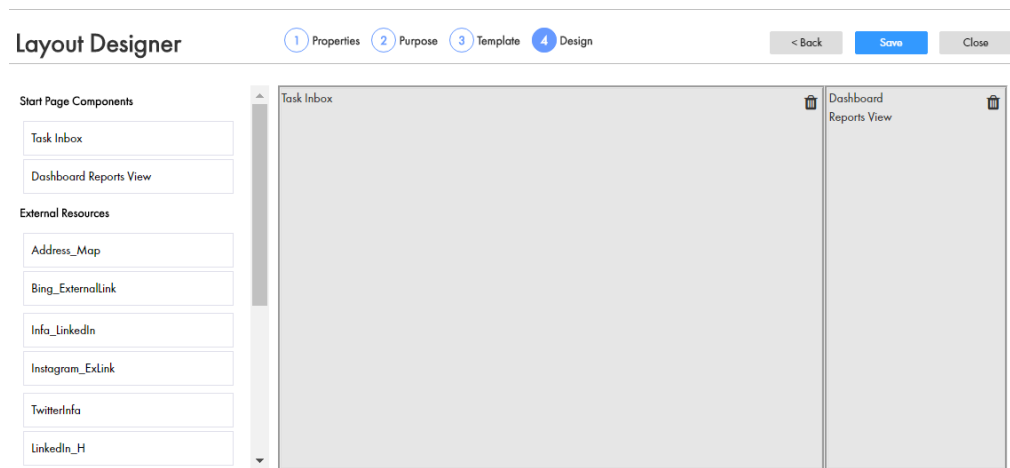
7. スタートページに必要なコンポーネントを表示するのに適したテンプレートを選択し、【次へ】 をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。

8. スタートページのレイアウトに必要なコンポーネントをワークスペース内にドラッグします。

例えば、【タスクインボックス】 コンポーネントと 【ダッシュボードレポートビュー】 コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、[タスクインボックス] コンポーネントと [ダッシュボードレポートビュー] コンポーネントがワークスペースにある [デザイン] ページを示しています。



9. [保存] をクリックします。

設計したスタートページがスタートページのレイアウトカテゴリの下に表示されます。

10. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. [パブリッシュ] をクリックします。

変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認し、[確認] をクリックします。

アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。

- c. 次のいずれかのボタンをクリックします。

- [パブリッシュ]。変更内容を MDM Hub に保存します。
- [いいえ]。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

エンティティビューのレイアウトの設計

レイアウトデザイナーで Informatica Data Director のエンティティビューを設計できます。例えば、ビジネスエンティティ、関連レコード、アドレスマップを表示するようにエンティティビューのレイアウトを設計します。

1. プロビジョニングツールで、[UI 設定] > [レイアウトデザイナー] をクリックします。

レイアウトデザイナーが表示されます。

2. [作成] > [エンティティビュー] をクリックします。

[レイアウトプロパティの定義] ページが表示されます。

3. 設計するレイアウトのプロパティを定義します。

a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュしたら、ラベルがレイアウトデザイナーのレイアウトリストに表示されます。
一意のラベル	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプション名	Informatica Data Director のビューリストに表示するオプションのラベル。
[リストオプション] アイコン	ビューリストに表示されるリストオプションのアイコン。
リスト順	ビューリストでのエンティティビューの順番。

b. レイアウトを設計するビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのタイプを選択します。

例えば、[Person] を選択します。

次の図は、プロパティが指定された【レイアウトプロパティの定義】ページを示しています。

Layout Designer

1 Properties

2 Purpose

3 Template

4 Design

Define Layout Properties

Specify the properties to define and identify the layout that you want to design.

*Layout name

Detailed Overview

*Unique label

Detailed Overview

Description

Optional. Enter a description to identify the layout.

*List option name

Detailed Overview

List option icon

* Browse

List order

1

Choose a type of business entity or business entity view for which you want to design a layout.

Secure Organization

Persons

Test Phone

Automobile

Secure Person

Account Group

Account

Household

Product Attribute

4. 【次へ】をクリックします。

【目的の定義】ページが表示されます。

5. 設計するレイアウトの目的を指定します。

a. レイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択します。

【目的の定義】ページに表示されるユーザーロールは、MDM Hub 環境で設定します。

レイアウトの設計および更新方法 97

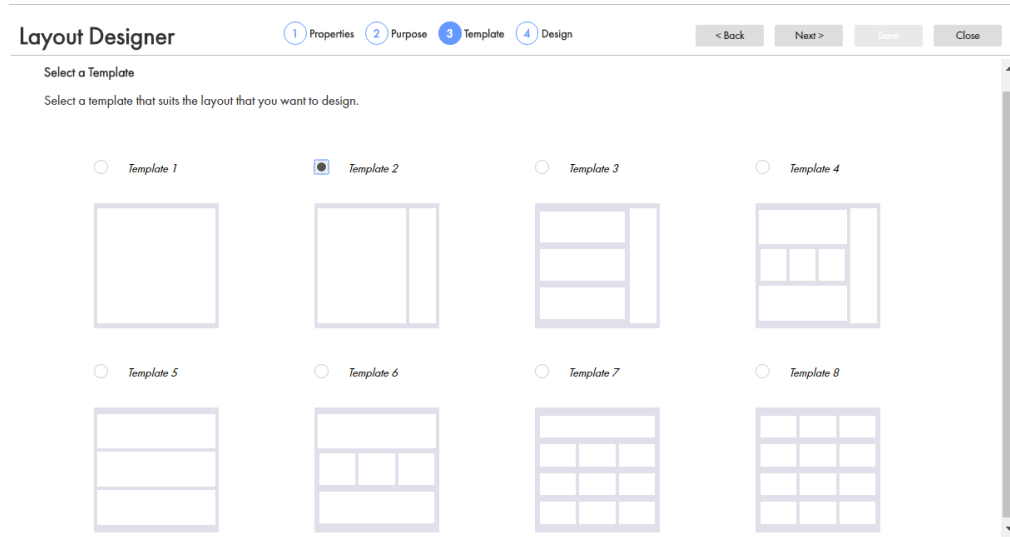
b. レイアウトを使用するタスクとして、以下のいずれかを選択します。

- エンティティの作成
- エンティティの編集
- エンティティの作成と編集

6. **【次へ】** をクリックします。

【テンプレートを選択】 ページが表示されます。

次の図は、**【テンプレートを選択】** ページを示しています。



7. エンティティビューに必要なコンポーネントを表示するのに適したテンプレートを選択し、**【次へ】** をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。

8. エンティティビューに必要なコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

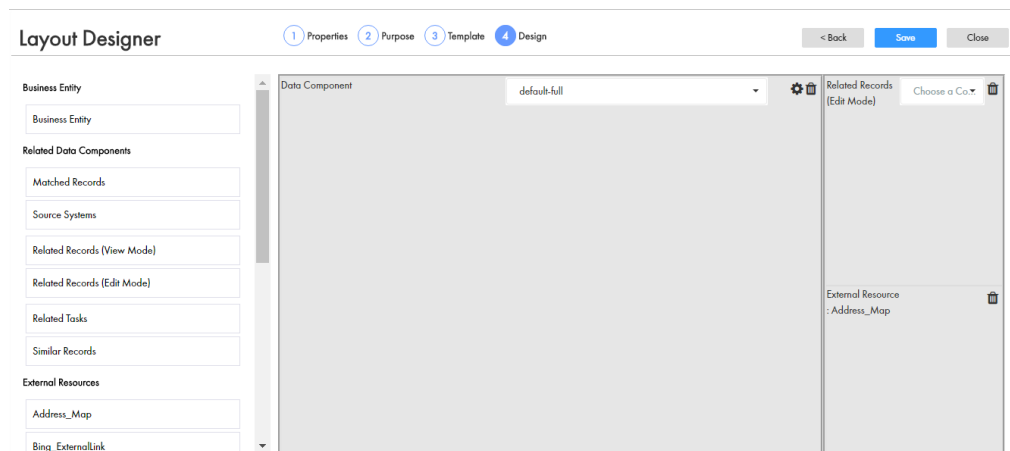
a. **【ビジネスエンティティ】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

【ビジネスエンティティ】 コンポーネントの1つのインスタンスのみをワークスペースにドラッグします。

b. エンティティビューでビジネスエンティティに関連した情報を表示するには、関連するデータコンポーネントおよび必要な外部リソースをワークスペースにドラッグします。

例えば、**【ビジネスエンティティ】** コンポーネント、**【関連レコード】** コンポーネント、および **【アドレスマップ】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、メインパネルに【ビジネスエンティティ】コンポーネントがあり、サイドパネルに【関連レコード】および【アドレスマップ】コンポーネントがある【デザイン】ページを示しています。



9. 【ビジネスエンティティ】コンポーネントの選択したフィールドをエンティティビューに表示するには、コンポーネントを設定します。
 - a. コンポーネントの設定リストから、設定を選択します。

デフォルト設定を選択することも、カスタム設定を選択することもできます。
使用可能なデフォルト設定を次に示します。

 - デフォルト-完全: ルートノードとすべての子ノードを含むビジネスエンティティの設定。
 - デフォルト-ルート: ビジネスエンティティのルートノードの設定。
 - b. ワークスペースでコンポーネントの【設定】アイコンをクリックします。

データコンポーネントデザイナーが表示されます。
 - c. 【設定名】フィールドに設定名を入力します。

重要: 設定名がどのビジネスエンティティ名とも同じでないことを確認してください。例えば、ご使用の環境に Person ビジネスエンティティがある場合は、設定の名前を Person にしないでください。
 - d. 垂直メニューを使用してビジネスエンティティの詳細にアクセスする場合は、【ナビゲーションビル】を有効にします。
 - e. 【属性】セクションから、エンティティビューで表示するビジネスエンティティ属性を【属性のレイアウト】セクションにドラッグします。

例えば、[名]、[ミドルネーム]、[姓]、[生年月日]、[税金 ID] を【属性のレイアウト】セクションにドラッグします。
 - f. 【子ノード】セクションから、エンティティビューで表示する子エンティティを【子ノードのレイアウト】セクションにドラッグします。

例えば、請求先住所、配送先住所、電話番号、電子メールを【子ノードのレイアウト】セクションにドラッグします。

次の図は、属性と子ノードのレイアウトが定義されたデータコンポーネントデザイナーを示しています。

- g. 選択した子エンティティのフィールドをエンティティビューで表示するには、子エンティティの横にある **【設定】** アイコンをクリックします。

データコンポーネントデザイナーが表示され、子エンティティを設計できます。

- h. **【完了】** をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。

10. **【保存】** をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。

アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。

- c. 次のいずれかのボタンをクリックします。

- **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
- **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

Person ビジネスエンティティタイプの下のレイアウトカテゴリに、設計したエンティティビューが表示されます。

スタートページのレイアウトの更新

レイアウトデザイナーで Informatica Data Director のスタートページを更新できます。例えば、追加コンポーネントを表示するようにスタートページのレイアウトを更新できます。

1. プロビジョニングツールで、**【UI 設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。

レイアウトデザイナーが表示されます。

2. 更新するレイアウトを選択するには、**スタートページ**のレイアウトカテゴリを展開し、更新するスタートページのレイアウトを選択します。

3. **【編集】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
4. スタートページに必要なコンポーネントをワークスペースにドラッグします。
例えば、**【タスクインボックス】** コンポーネントと **【ダッシュボードレポートビュー】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
5. コンポーネントをスタートページのレイアウトに追加するには、コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
6. スタートページのレイアウトからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの **【削除】** アイコンをクリックします。
7. レイアウトのプロパティ、目的、またはテンプレートを更新するには、**【戻る】** をクリックして前のページに移動し、変更を行います。
8. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。
アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。
 - c. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
 - **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

エンティティビューのレイアウトの更新

レイアウトデザイナーで Informatica Data Director のエンティティビューを更新できます。例えば、追加の関連データコンポーネントを表示したり不要になったコンポーネントを削除したりするためにエンティティビューのレイアウトを更新できます。

1. プロビジョニングツールで、**【UI 設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. 更新するレイアウトを選択するには、エンティティビューのレイアウトに関連するレイアウトカテゴリを展開し、エンティティビューのレイアウトを選択します。
3. **【編集】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
4. エンティティビューのレイアウトのデータコンポーネントでフィールドの追加または削除を行うには、コンポーネントを設定します。
 - a. ワークスペースでデータコンポーネントの **【設定】** アイコンをクリックします。
データコンポーネントデザイナーが表示されます。
 - b. 必要に応じて、**【ナビゲーションビル】** を有効または無効にします。
ビジネスエンティティの詳細にアクセスするための垂直メニューを有効または無効にします。
 - c. 特定のビジネスエンティティ属性をエンティティビューのレイアウトに追加するには、**【属性】** セクションから、ビジネスエンティティ属性を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。

- d. 特定のビジネスエンティティ属性をエンティティビューのレイアウトから削除するには、**【属性のレイアウト】** セクションでビジネスエンティティ属性の **【削除】** アイコンをクリックします。
 - e. 子ビジネスエンティティをエンティティビューのレイアウトに追加するには、**【子ノード】** セクションから子ビジネスエンティティを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。
 - f. 特定の子エンティティをエンティティビューのレイアウトから削除するには、**【子ノードのレイアウト】** セクションで子エンティティの **【削除】** アイコンをクリックします。
 - g. 選択した子エンティティのフィールドをエンティティビューで表示するには、子エンティティの横にある **【設定】** アイコンをクリックします。
データコンポーネントデザイナーが表示され、子エンティティを設計できます。
 - h. **【完了】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
- 5. コンポーネントをエンティティビューのレイアウトに追加するには、コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
 - 6. エンティティビューのレイアウトからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの **【削除】** アイコンをクリックします。
 - 7. レイアウトのプロパティ、目的、またはテンプレートを更新するには、**【戻る】** をクリックして前のページに移動し、変更を行います。
 - 8. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
 - 9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
変更の確認ダイアログボックスが表示され、変更内容を確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認し、**【確認】** をクリックします。
アプリケーションで検証プロセスが実行されます。確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュするように求められます。
 - c. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **【パブリッシュ】**。変更内容を MDM Hub に保存します。
 - **【いいえ】**。変更内容は一時ワークスペースに残ります。

付録 A

プロビジョニングツールに関するよくある質問

- [プロビジョニングツールに関するよくある質問, 103 ページ](#)

プロビジョニングツールに関するよくある質問

以下では、よくある質問に回答することによって、プロビジョニングツールの概要を説明しています。

プロビジョニングツールとは何をするものですか？

プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティモデル、タスク、トランスフォーメーションを定義し、Informatica Data Director のユーザーインターフェースを設計できます。

プロビジョニングツールはどこにインストールしますか？

プロビジョニングツールは、Hub サーバーと同じアプリケーションサーバー上で実行する必要があります。

構成ファイルを MDM Hub にパブリッシュするときに、設定は検証されますか？

はい。Repository Manager によって設定が検証され、エラーがあった場合には報告されます。

名前フィールドで特殊文字（'_' など）を使用できますか？

いいえ。プロビジョニングツールでは、名前に特殊文字を使用することはできません。サブジェクト領域の設定からビジネスエンティティスキーマを生成する場合は、最初に、サブジェクト領域の設定で名前から特殊文字を削除しておく必要があります。

複数のユーザーが同時に同じオペレーショナル参照ストアのビジネスエンティティを設定するとどうなりますか？

オペレーショナル参照ストアのビジネスエンティティ設定に、設定に含まれていない変更がある場合は、プロビジョニングツールによって通知されます。設定をパブリッシュし、MDM Hub にあるすべての設定を上書きすることができます。

注意: あるユーザーが行った変更を別のユーザーが誤って上書きする可能性があるため、Informatica は、プロビジョニングツールを使用する前にユーザー間で調整することを推奨しています。

設定の更新中に MDM Hub でスキーマの設定が変更された場合はどうなりますか？

構成ファイルに対して作業を行っている間、[適用] をクリックすると、変更が一時ワークスペースに保存されます。変更をパブリッシュするまで変更は適用されません。複数のユーザーが ORS のビジネスエンティティ設定を同時に変更する場合、最後にパブリッシュされた設定で MDM Hub が更新されます。

注: [適用] をクリックすると、変更を編集できなくなります。変更を編集するには、変更を破棄するか、またはパブリッシュしてください。

ビジネスエンティティモデルで使用する最大レベル数はどのくらいですか？

最大レベル数が3のサブジェクト領域とは異なり、ビジネスエンティティモデルで使用するレベル数には制限がありません。

ベースオブジェクトはどのようにして作成および設定しますか？

ベースオブジェクトを作成および設定するには、Hub コンソールのスキーマツールを使用します。

ベースオブジェクト間の制約はどのようにして定義しますか？

ベースオブジェクト間の制約を定義するには、Hub コンソールのリレーションツールを使用します。

索引

数字

- 1
ノードの追加 [23](#)

D

- DaaS
統合 [66](#)
トランスフォーメーション [64](#)
- DaaS コンポーネント
作成 [74](#)
- DaaS 統合
概要 [63](#)
- DaaS プロバイダ
概要 [65](#)
コンポーネント [65](#)

I

- IDD アプリケーション
作成 [91](#)
- Informatica Data Director
アプリケーション [80](#)
- Informatica Data Director アプリケーション
概要 [80](#)
- Informatica Data Director のユーザーインタフェースレイアウト
概要 [81](#)
- Informatica Data Director のラベル
概要 [28](#)
- Informatica Data Director のユーザーインタフェース
エンティティビュー [82](#)
概要 [79](#)
コンポーネント [82](#), [86](#)
スタートページ [81](#)
前提条件 [80](#)
例 [80](#)
レイアウト [79](#), [81](#)

S

- SOAP サービス
WSDL [64](#)
概要 [65](#)

W

- WSDL
DaaS プロバイダ [64](#)
SOAP サービス [64](#)

あ

- アーキテクチャ
概要 [10](#)

い

- 依存
ルックアップの設定 [34](#)
- 依存ルックアップ [31](#)
- 一致レコード
コンポーネント [84](#)

え

- エンティティビュー
概要 [82](#)
更新 [101](#)
コンポーネント [82](#), [86](#)
設計 [96](#)
設定 [96](#), [101](#)
- エンティティビューのレイアウト
設計 [75](#)

か

- 外部キー
概要 [20](#)
- 外部呼び出し
概要 [76](#)
設定 [77](#), [78](#)
- 外部リソース
コンポーネント [87](#)
- 概要
DaaS 統合 [63](#)
- カスタムデータ型
概要 [28](#)
追加 [28](#)
- 関連タスク
コンポーネント [85](#)
- 関連レコード
コンポーネント [46](#), [47](#), [84](#), [89](#)
コンポーネントの作成 [51](#), [92](#)

こ

- コンポーネント
一致レコード [84](#)
外部リソース [87](#)
関連タスク [85](#)
関連レコード [46](#), [47](#), [84](#), [89](#)
設定例 [87](#), [88](#), [90](#)

コンポーネント (続く)
ソースシステム [85](#)
タスクインボックス [86](#)
ビジネスエンティティ [83](#)
類似するレコード [89](#)

さ

サインイン
プロビジョニングツール [11](#)
削除
DaaS プロバイダ [75](#)
SOAP サービス [75](#)
WSDL ファイル [75](#)
拡張 [75](#)
参照エンティティ
概要 [11](#)
作成 [16](#)
参照エンティティフィールド
追加 [33](#)

し

状態管理
ビジネスエンティティ [17](#)

す

スタートページ
概要 [81](#)
更新 [100](#)
コンポーネント [82](#), [86](#)
設計 [94](#)
設定 [94](#), [100](#)

せ

制約
概要 [20](#)
設定
リレーション [49](#)
前提条件
概要 [10](#)
ビジネスエンティティ構造の定義 [20](#)
ルートノードの確立 [14](#)

そ

ソースシステム
コンポーネント [85](#)

た

多
ノードの追加 [22](#)
タスクインボックス
コンポーネント [86](#)
多対多のリレーション
設定手順 [48](#)
多対多のリレーションの設定
前提条件 [48](#)

つ

追加属性
リレーション [48](#)

と

トランスフォーメーション
DaaS [64](#)
XML からビジネスエンティティ [64](#)
タイプ [64](#)
ビジネスエンティティから XML [64](#)

の

ノードタイプ
概要 [21](#)
ノードのラベル
概要 [28](#)
設定 [30](#)

は

はじめに [7](#)

ひ

ビジネスエンティティ
概要 [11](#)
コンポーネント [83](#)
削除ストラテジの設定 [18](#)
作成 [15](#)
識別ストラテジの設定 [18](#)
状態管理の設定 [17](#)
ビジネスエンティティ構造
ノードタイプ [21](#)
ビジネスエンティティモデル
概要 [19](#)
ビジネスエンティティリレーション
概要 [46](#)

ふ

フィールド
追加 [27](#)
フィールドのプロパティ
概要 [25](#), [32](#)
プライマリキー
概要 [20](#)
プロビジョニングツール
概要 [9](#)

へ

変換
XML からビジネスエンティティ [69](#)
ビジネスエンティティから XML [67](#)

り

リレーション
外部キー [20](#)
設定 [49](#)
追加属性 [48](#)

る

類似するレコード
コンポーネント [89](#)
コンポーネントの作成 [93](#)
設定例 [87](#), [88](#), [90](#)
ルートノード
概要 [11](#), [13](#)
参照エンティティ [16](#)
ビジネスエンティティ [15](#)
ルートノードのプロパティ
ビジネスエンティティ [14](#)

ルックアップの設定 [34](#)

れ

レイアウト
Informatica Data Director のユーザーインターフェース [81](#)
エンティティビュー [82](#)
コンポーネント [82](#), [86](#)
スタートページ [81](#)
レイアウトのコンポーネント
カスタム [86](#)
標準 [82](#)

ろ

ログイン
プロビジョニングツール [11](#)